2027年3月期第2四半期（中間期） 決算説明資料

2026.11.04

TISI株式会社

© 2026 TISI Inc.

- TISIの河村でございます。よろしくお願いいたします。
- それでは、本日15:30に発表しました、2027年3月期第2四半期の決算の内容についてご説明いたします。

今回決算のハイライト

2027年3月期第2四半期（中間期） 業績概要

・前年同期比増収増益。計画を上回って着地。

・営業利益率は前年同期比0.1ポイント向上し12.4%に。

・受注高・受注残高は、ともに前年同期比2桁の力強い伸び。

2027年3月期 業績見通し

・好調な上期業績や受注状況を踏まえ、通期業績予想を上方修正。

株主還元

・通期業績予想の引き上げを踏まえ、期末配当予想を1株当たり2円引き上げ。

© 2026 TISI Inc.

- はじめに、2ページをご覧ください。
- 今回の決算のハイライトです。
- まず、2027年3月期第2四半期の業績については、前年同期比で増収増益となり、計画を上回って着地いたしました。
- 営業利益率は前年同期比0.1ポイント向上し、12.4%となりました。
- また、受注高・受注残高は、ともに前年同期比で2桁の力強い伸びとなっております。
- 次に、2027年3月期の業績見通しについては、好調な上期業績や受注状況を踏まえ、通期業績予想を上方修正いたしました。
- 株主還元については、通期業績予想の引き上げを踏まえ、期末配当予想を1株当たり2円引き上げることといたしました。

- 以上が今回の決算のハイライトです。
- それでは、今申し上げた内容のご説明に入っていきたいと思います。

目次

1　2027年3月期第2四半期（中間期） 業績概要

2　2027年3月期 業績見通し

3　株主還元

4　今後の成長に向けた取り組み

5　参考資料

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、TISインテックグループ（TISIおよびグループ会社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
・各四半期会計期間（3カ月）の数値は累計期間の差引により算出しています。
・各セグメントの売上高はセグメント間の売上高を含んだ数値です。（P.40、41除く）

© 2026 TISI Inc.

（説明省略）



1	2027年3月期第2四半期(中間期) 業績概要
2	2027年3月期 業績見通し
3	株主還元
4	今後の成長に向けた取り組み
5	参考資料

© 2026 TISI Inc.

（説明省略）

2027年3月期第2四半期（中間期）
業績ハイライト（前年同期比）

TISI
TIS INTEC Group

- 顧客のデジタル変革をはじめとするIT投資需要への的確な対応やサービス提供の推進による事業拡大等が牽引し、増収増益。

（百万円）	2026年3月期 第2四半期（累計）	2027年3月期 第2四半期（累計）	前年同期比	
売上高	288,525	**307,153**	+18,627	（+6.5%）
営業利益	35,553	**38,184**	+2,630	（+7.4%）
営業利益率	12.3%	**12.4%**	+0.1P	－
親会社株主に帰属する中間純利益	23,726	**26,937**	+3,210	（+13.5%）
中間純利益率	8.2%	**8.8%**	+0.6P	－

・営業外収益：1,774百万円（前年同期比　+294百万円）
　→受取配当金　824百万円
　　為替差益　　425百万円 等

・営業外費用：1,619百万円（前年同期比　+555百万円）
　→支払利息　　547百万円
　　支払手数料　411百万円　等

・特別利益：4,784百万円（前年同期比　+2,684百万円）
　→投資有価証券売却益　4,217百万円　等

・特別損失：1,873百万円（前年同期比　+220百万円）
　→減損損失　994百万円　等

© 2026 TISI Inc.

- それでは、5ページをご覧ください。2027年3月期上期の業績ハイライトです。
- 引き続き良好な事業環境を背景に事業拡大を進め、増収増益を実現することができました。
- 売上高は、前年同期比6.5%増の3,071億円。
- 営業利益は、前年同期比7.4%増の381億円となり、営業利益率は0.1ポイント上昇して12.4%となりました。
- また、親会社株主に帰属する中間純利益は、営業利益の増加に加えて、政策保有株式のさらなる縮減に伴う特別損益の改善により前年同期比13.5%増の269億円となりました。

2027年3月期第2四半期(中間期)
業績ハイライト(計画比)

TISI
TIS INTEC Group

- 幅広い顧客のIT投資需要の高まりを背景に計画を上回って着地。

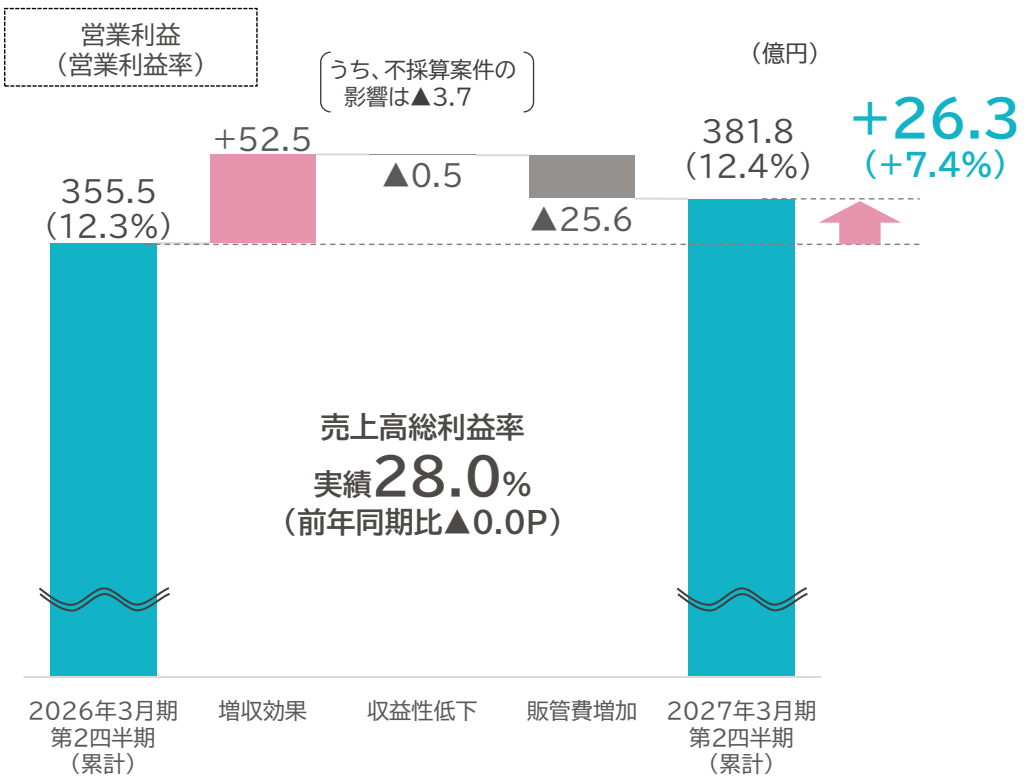
(百万円)	2027年3月期 上期計画	2027年3月期 上期実績	計画比	
売上高	300,000	**307,153**	+7,153	(+2.4%)
営業利益	36,500	**38,184**	+1,684	(+4.6%)
営業利益率	12.2%	**12.4%**	+0.2P	–
親会社株主に帰属する 中間純利益	26,000	**26,937**	+937	(+3.6%)
中間純利益率	8.7%	**8.8%**	+0.1P	–

© 2026 TISI Inc.

- 続いて、6ページは上期業績の計画比の状況です。
- 幅広い顧客のIT投資需要の高まりを背景に、計画を上回る着地となりました。

2027年3月期第2四半期(中間期)
営業利益要因別増減分析(前年同期比)

- 継続的な成長投資に加えて前年同期比+20億円の報酬投資を実施する中で、増収効果により営業増益を達成。売上高総利益率は28.0%。



<販管費増減>

	前年同期比
連結子会社異動影響等	+3.1
成長投資	+1.3
施策推進	+12.5
合併関連	+4.5
その他経費	+4.0
計	+25.6

<成長投資>
(人材投資・研究開発投資・ソフトウェア投資)

	前年同期比
売上原価	+2.6
販管費	+1.3
計	+4.0

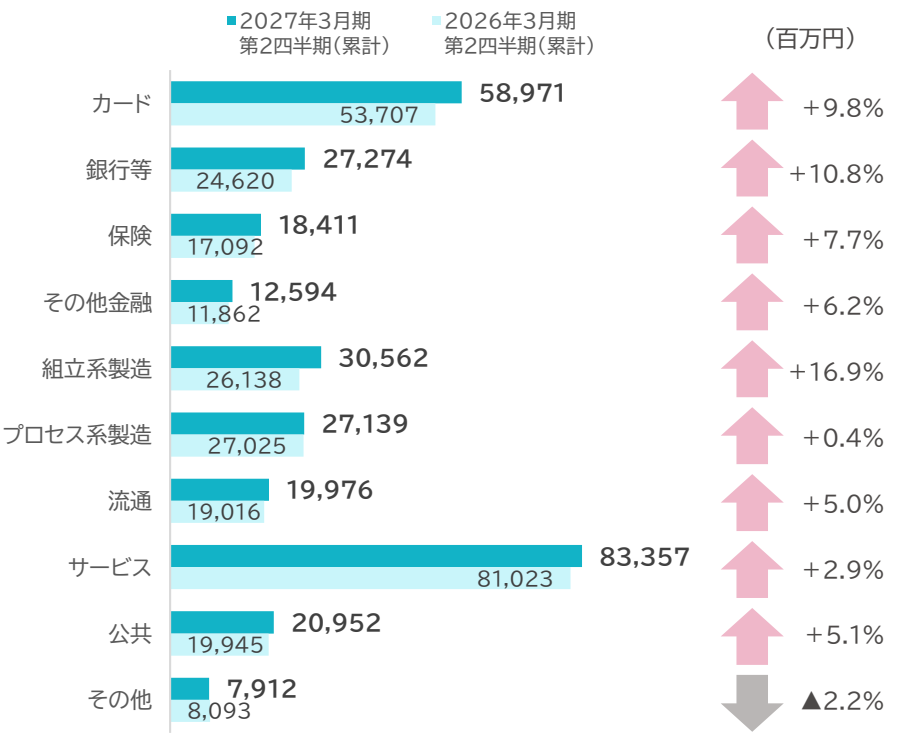
© 2026 TISI Inc.

- 続いて、7ページをご覧ください。営業利益の要因別増減分析です。
- 継続的な成長投資に加えて、前年同期比20億円の報酬投資を実施する中でも、増収効果により営業増益を達成しました。
- 売上高総利益率は28.0%と、前年同期並みでした。「オファリングサービス」以外のセグメントでは売上高総利益率が改善しましたが、「オファリングサービス」の収益性低下が全体の改善を抑えました。詳細については、P.9のセグメント別損益状況でご説明します。
- なお、上期の不採算案件は7.2億円で、このうち第2四半期は4.8億円でした。第2四半期の主な内訳は、「産業IT」と「広域ITソリューション」でそれぞれ約2億円で、いずれも小さなものの積み上げです。
- 通期の不採算案件の目標は10億円で、変更はありません。あらためて抑制に注力します。

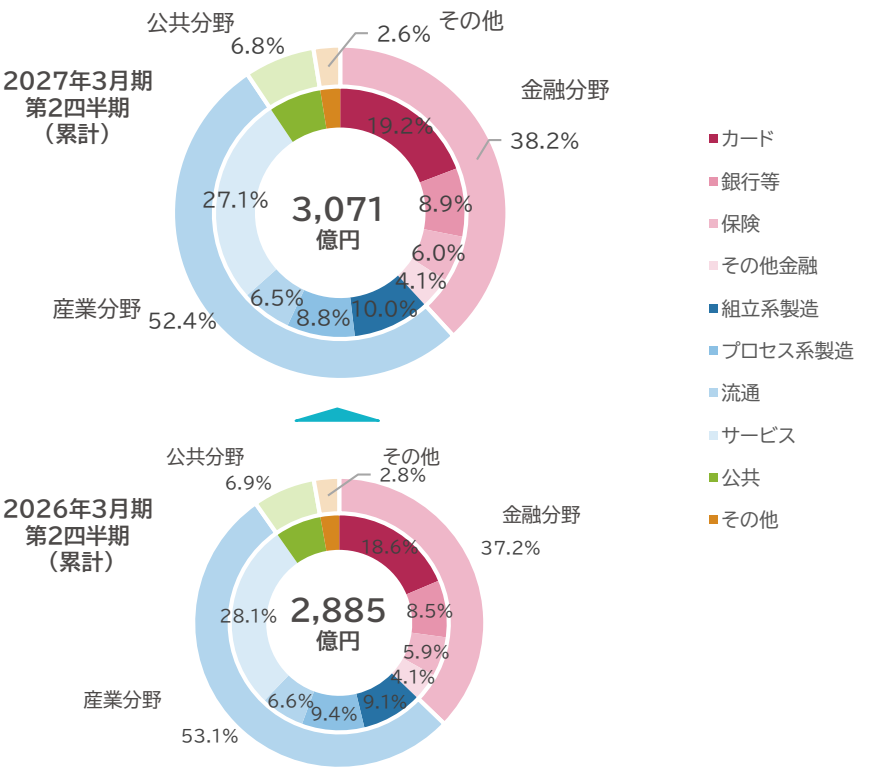
2027年3月期第2四半期（中間期）
顧客業種別売上高

- 全体的に増収基調。金融系はカード・銀行を中心に好調。産業系は組立系製造が大きく伸長。公共も堅調に推移。

業種別売上高



業種別売上高構成比



© 2026 TISI Inc.

※一部顧客の業種区分の見直しに伴い、前年同期の売上高および構成比は、変更後の区分に組み替えて表示しています。

- 続いて、8ページをご覧ください。顧客業種別の売上高です。
- なお、今回から一部顧客の業種区分を見直したため、前年同期の数値は変更後の区分に組み替えて表示しています。
- ご覧のとおり、全体的に増収基調で推移しました。
- 金融系は、カード、銀行等を中心に好調でした。
- 産業系は、組立系製造が16.9%増と大きく伸長しました。
- また、公共系も堅調に推移しました。

2027年3月期第2四半期（中間期）
主要セグメント別損益状況（前年同期比）

（百万円）		2026年3月期 第2四半期（累計）	2027年3月期 第2四半期（累計）	前年同期比		概況
オファリングサービス	売上高	76,070	82,584	+6,513	(+8.6%)	決済分野、基盤系等をはじめとするIT投資需要の拡大や海外事業の寄与により増収の一方、決済分野における先行投資の増加、海外事業等の収益性低下の影響により減益。
	営業利益	4,667	4,271	▲395	(▲8.5%)	
	営業利益率	6.1%	5.2%	▲0.9P	–	
BPM	売上高	21,725	22,738	+1,013	(+4.7%)	注力領域と位置付けるDX事業をはじめとする案件獲得等により増収増益。成長領域への投資強化等により、営業利益率は低下。
	営業利益	2,966	3,013	+46	(+1.6%)	
	営業利益率	13.7%	13.3%	▲0.4P	–	
金融IT	売上高	48,078	53,621	+5,542	(+11.5%)	クレジットカード系の根幹先顧客への深耕やモダナイゼーション関連等の高付加価値ビジネスの推進により増収増益。
	営業利益	6,162	7,456	+1,294	(+21.0%)	
	営業利益率	12.8%	13.9%	+1.1P	–	
産業IT	売上高	65,152	69,090	+3,938	(+6.0%)	製造・サービスをはじめとした幅広い業種におけるIT投資拡大により増収増益。
	営業利益	10,624	11,875	+1,251	(+11.8%)	
	営業利益率	16.3%	17.2%	+0.9P	–	
広域ITソリューション	売上高	89,425	93,065	+3,640	(+4.1%)	生損保、銀行などの金融系顧客の旺盛なIT投資需要に加え、産業系顧客でもモダナイゼーションをはじめ幅広い需要が拡大し、増収増益。
	営業利益	10,795	11,299	+504	(+4.7%)	
	営業利益率	12.1%	12.1%	+0.0P	–	

© 2026 TISI Inc.

- 続いて、9ページをご覧ください。主要セグメント別の損益状況を前年同期と比較したものです。
- 「オファリングサービス」は、決済分野、基盤系等をはじめとするIT投資需要の拡大や海外事業の寄与により、増収の一方で、決済分野における先行投資の増加や海外事業等の収益性低下の影響により、減益となりました。
- 「BPM」は、注力領域と位置付けるDX事業をはじめとする案件獲得等により、増収増益となりました。営業利益率の低下は成長領域への投資強化によるものです。
- 「金融IT」は、クレジットカード系の根幹先顧客への深耕やモダナイゼーション関連等の高付加価値ビジネスの推進により、増収増益です。
- 「産業IT」は、製造・サービスをはじめとした幅広い業種におけるIT投資拡大により、増収増益となりました。
- 「広域ITソリューション」は、生損保、銀行などの金融系顧客の旺盛なIT投資需要に加え、産業系顧客でもモダナイゼーションをはじめ幅広い需要が拡大し、増収増益となりました。

2027年3月期第2四半期(中間期)
主要セグメント別損益状況(計画比)

(百万円)		2027年3月期 上期計画	2027年3月期 上期実績	計画比		概況
オファリング サービス	売上高	78,400	82,584	+4,184	(+5.3%)	基盤系、エンタープライズ系を中心としたIT投資拡大により、売上高は計画を上回る一方、付加価値の高い案件の獲得が想定を下回り利益は未達。海外事業の収益性も低下。
	営業利益	4,450	4,271	▲178	(▲4.0%)	
	営業利益率	5.7%	5.2%	▲0.5P	–	
BPM	売上高	21,700	22,738	+1,038	(+4.8%)	収益性の高いDX事業の案件獲得が想定以上に進み、売上高、利益ともに計画を上回る。
	営業利益	2,800	3,013	+213	(+7.6%)	
	営業利益率	12.9%	13.3%	+0.4P	–	
金融IT	売上高	53,000	53,621	+621	(+1.2%)	根幹先顧客およびモダナイゼーション関連等の高付加価値ビジネスの推進により売上高、利益は計画を上回る。
	営業利益	7,000	7,456	+456	(+6.5%)	
	営業利益率	13.2%	13.9%	+0.7P	–	
産業IT	売上高	66,500	69,090	+2,590	(+3.9%)	サービス・製造等の幅広い業種のIT投資が想定を上回ったことにより売上高、利益ともに計画を上回る。
	営業利益	10,700	11,875	+1,175	(+11.0%)	
	営業利益率	16.1%	17.2%	+1.1P	–	
広域IT ソリューション	売上高	92,500	93,065	+565	(+0.6%)	生損保等のIT投資需要が想定を上回ったものの、医療系の反動減の影響により、売上高、利益は計画線。
	営業利益	11,300	11,299	▲0	(▲0.0%)	
	営業利益率	12.2%	12.1%	▲0.1P	–	

© 2026 TISI Inc.

- 続いて、10ページをご覧ください。主要セグメント別の損益状況を、計画と比較したものです。
- 「BPM」「金融IT」「産業IT」の3セグメントは、売上高、営業利益ともに計画を上回りました。特に「産業IT」は、幅広い業種のIT投資が想定を上回り、営業利益は計画比11.0%増となりました。
- 「オファリングサービス」は、基盤系、エンタープライズ系を中心としたIT投資の拡大に加え、為替影響を含む海外事業の伸長により、売上高は計画を上回ったものの、営業利益は計画を下回りました。エンタープライズ系の、前期に業績を牽引した付加価値の高い案件の反動減と、海外事業の収益性低下が加わったことが要因です。
- 「広域ITソリューション」は、生損保等のIT投資需要が想定を上回ったものの、医療系の反動減の影響により、計画どおりの着地です。

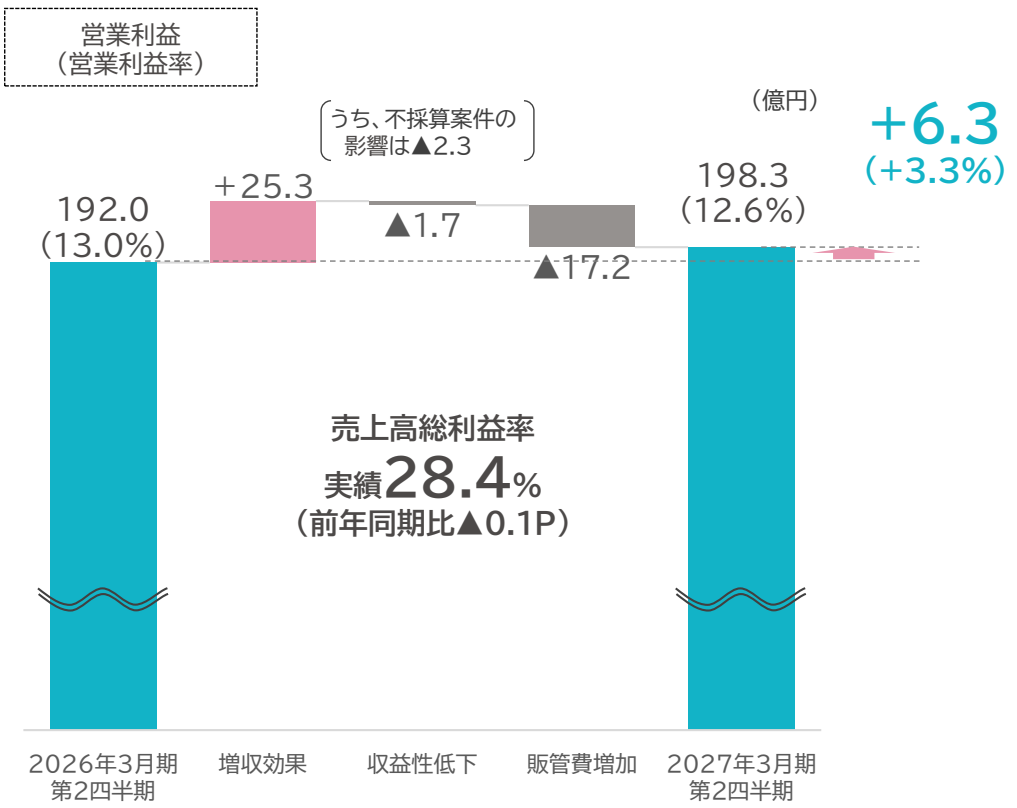
（参考）2027年3月期第2四半期(7-9月)
業績ハイライト・主要セグメント別損益

（百万円）		2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比	
売上高		148,209	**157,042**	+8,832	(+6.0%)
営業利益		19,200	**19,836**	+636	(+3.3%)
営業利益率		13.0%	**12.6%**	▲0.4P	–
親会社株主に帰属する四半期純利益		11,206	**12,527**	+1,321	(+11.8%)
四半期純利益率		7.6%	**8.0%**	+0.4P	–
主要セグメント別					
オファリング サービス	売上高	39,823	**42,752**	+2,928	(+7.4%)
	営業利益	2,937	**2,628**	▲308	(▲10.5%)
	営業利益率	7.4%	**6.1%**	▲1.3P	–
BPM	売上高	11,038	**11,688**	+649	(+5.9%)
	営業利益	1,542	**1,575**	+32	(+2.1%)
	営業利益率	14.0%	**13.5%**	▲0.5P	–
金融IT	売上高	24,447	**27,819**	+3,372	(+13.8%)
	営業利益	3,182	**3,927**	+745	(+23.4%)
	営業利益率	13.0%	**14.1%**	+1.1P	–
産業IT	売上高	32,803	**35,013**	+2,210	(+6.7%)
	営業利益	5,516	**5,674**	+157	(+2.9%)
	営業利益率	16.8%	**16.2%**	▲0.6P	–
広域IT ソリューション	売上高	45,625	**47,210**	+1,585	(+3.5%)
	営業利益	5,957	**6,028**	+71	(+1.2%)
	営業利益率	13.1%	**12.8%**	▲0.3P	–

© 2026 TISI Inc.

- 11ページと12ページでは、第2四半期3か月間の業績をご説明します。
- 前年同期比増収増益となりましたが、営業利益率は前年同期から0.4ポイント低下しました。
- このうち「オファリングサービス」「BPM」「金融IT」「広域ITソリューション」は上期と同様の傾向ですので説明を割愛し、第2四半期に利益率が低下した「産業IT」についてご説明します。
- 「産業IT」は増収増益となりましたが、営業利益率は前年同期から0.6ポイント低下しました。第1四半期まで利益を牽引した収益性の高い大型案件が、安定的な推進により完遂に近づき、ピークアウトしつつあることが主な要因です。端境期とならないよう、新規案件の獲得を進めてまいります。

（参考）2027年3月期第2四半期(7-9月)
営業利益要因別増減分析(前年同期比)



＜販管費増減＞

	前年同期比
連結子会社異動影響等	+1.5
成長投資	+0.2
施策推進	+8.4
合併関連	+2.6
その他経費	+4.3
計	+17.2

＜成長投資＞
（人材投資・研究開発投資・ソフトウェア投資）

	前年同期比
売上原価	+1.6
販管費	+0.2
計	+1.8

© 2026 TISI Inc.

（説明省略）

2027年3月期第2四半期（中間期）
受注状況（当期受注高）

- 当期受注高は運用・販売が牽引し、前年同期比11.0%増加。
- オファリングサービス、金融ITの運用・販売が大幅に伸長の一方、産業ITの運用・販売は減少。

（百万円）		2026年3月期 第2四半期（累計）	2027年3月期 第2四半期（累計）	前年同期比	
当期受注高		294,269	326,524	+32,254	(+11.0%)
ソフトウェア開発		149,694	162,545	+12,850	(+8.6%)
運用・販売		144,575	163,979	+19,404	(+13.4%)
主要セグメント別					
オファリングサービス	当期受注高	67,644	82,028	+14,383	(+21.3%)
	ソフトウェア開発	29,400	33,448	+4,048	(+13.8%)
	運用・販売	38,244	48,580	+10,335	(+27.0%)
BPM	当期受注高	21,026	22,068	+1,041	(+5.0%)
	ソフトウェア開発	7,027	8,058	+1,031	(+14.7%)
	運用・販売	13,998	14,009	+10	(+0.1%)
金融IT	当期受注高	48,526	57,562	+9,035	(+18.6%)
	ソフトウェア開発	26,095	28,667	+2,572	(+9.9%)
	運用・販売	22,431	28,894	+6,463	(+28.8%)
産業IT	当期受注高	64,821	69,141	+4,319	(+6.7%)
	ソフトウェア開発	42,161	47,140	+4,979	(+11.8%)
	運用・販売	22,660	22,000	▲659	(▲2.9%)
広域ITソリューション	当期受注高	92,250	95,723	+3,472	(+3.8%)
	ソフトウェア開発	45,010	45,229	+219	(+0.5%)
	運用・販売	47,240	50,493	+3,253	(+6.9%)

© 2026 TISI Inc.

- 13ページからは、受注状況についてご説明します。
- まず13ページは、当期受注高の状況です。当期受注高は前年同期比11.0%増と、力強く増加しました。
- 運用・販売が13.4%増と全体を牽引し、ソフトウェア開発も8.6%増と堅調に推移しています。
- セグメント別では、「オファリングサービス」、「金融IT」が大きく伸長しました。
- 「産業IT」は運用・販売が小幅減少となりましたが、ソフトウェア開発が11.8%増と2桁の伸びを示し、受注高全体では6.7%増加しました。
- 全般的に受注環境は良好であり、下期もしっかりと積み上げていけると見ています。

（参考）2027年3月期第2四半期(7-9月)
受注状況

（百万円）		2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比	
当期受注高		193,917	214,824	+20,906	(+10.8%)
ソフトウェア開発		79,571	83,625	+4,053	(+5.1%)
運用・販売		114,345	131,198	+16,853	(+14.7%)
主要セグメント別					
オファリング サービス	当期受注高	48,502	54,870	+6,367	(+13.1%)
	ソフトウェア開発	15,593	15,129	▲464	(▲3.0%)
	運用・販売	32,909	39,741	+6,831	(+20.8%)
BPM	当期受注高	11,128	11,844	+715	(+6.4%)
	ソフトウェア開発	3,874	4,605	+730	(+18.8%)
	運用・販売	7,253	7,239	▲14	(▲0.2%)
金融IT	当期受注高	35,390	45,034	+9,643	(+27.2%)
	ソフトウェア開発	13,886	17,401	+3,514	(+25.3%)
	運用・販売	21,504	27,633	+6,129	(+28.5%)
産業IT	当期受注高	40,523	41,179	+656	(+1.6%)
	ソフトウェア開発	22,537	23,210	+672	(+3.0%)
	運用・販売	17,985	17,969	▲16	(▲0.1%)
広域IT ソリューション	当期受注高	58,371	61,894	+3,523	(+6.0%)
	ソフトウェア開発	23,679	23,280	▲399	(▲1.7%)
	運用・販売	34,691	38,614	+3,923	(+11.3%)

© 2026 TISI Inc.

- 14ページは参考として、第2四半期3か月間の受注状況をお示ししています。
- 当期受注高は前年同期比10.8%増となり、ソフトウェア開発、運用・販売ともに増加しました。
- 第1四半期と比べるとソフトウェア開発の伸び率は緩やかになり、一部、前年同期を下回っているものもありますが、これは案件獲得のタイミングなど受注の波によるもので、一時的なものと捉えています。

2027年3月期第2四半期（中間期）
受注状況（期末受注残高）

- 期末受注残高は前年同期比13.2%増加。ソフトウェア開発、運用・販売ともに伸長。
- オファリングサービスと金融ITが増加を牽引。

（百万円）		2026年3月期 第2四半期末	2027年3月期 第2四半期末	前年同期比	
期末受注残高		204,054	230,936	+26,881	(+13.2%)
ソフトウェア開発		107,608	118,999	+11,391	(+10.6%)
運用・販売		96,446	111,936	+15,489	(+16.1%)
主要セグメント別					
オファリングサービス	期末受注残高	47,241	57,876	+10,634	(+22.5%)
	ソフトウェア開発	19,580	24,411	+4,830	(+24.7%)
	運用・販売	27,661	33,465	+5,803	(+21.0%)
BPM	期末受注残高	7,919	8,582	+663	(+8.4%)
	ソフトウェア開発	7,542	8,242	+700	(+9.3%)
	運用・販売	376	339	▲37	(▲9.8%)
金融IT	期末受注残高	42,019	49,749	+7,730	(+18.4%)
	ソフトウェア開発	21,066	22,663	+1,597	(+7.6%)
	運用・販売	20,953	27,086	+6,132	(+29.3%)
産業IT	期末受注残高	43,032	45,840	+2,808	(+6.5%)
	ソフトウェア開発	26,509	29,141	+2,631	(+9.9%)
	運用・販売	16,522	16,699	+176	(+1.1%)
広域ITソリューション	期末受注残高	63,841	68,886	+5,044	(+7.9%)
	ソフトウェア開発	32,909	34,540	+1,631	(+5.0%)
	運用・販売	30,932	34,346	+3,413	(+11.0%)

© 2026 TISI Inc.

- 15ページは期末受注残高の状況です。
- 期末受注残高は前年同期比13.2%増となりました。ソフトウェア開発、運用・販売、いずれも伸長しています。
- セグメント別では、「オファリングサービス」、「金融IT」が、全体の増加を牽引しました。
- そのほかのセグメントも、いずれも前年同期比で増加しており、十分な受注残高を確保したよい状況で下期に入ることができています。

1 2027年3月期第2四半期(中間期) 業績概要
2 2027年3月期 業績見通し
3 株主還元
4 今後の成長に向けた取り組み
5 参考資料

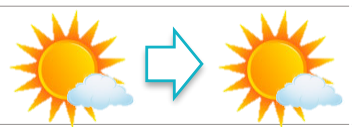
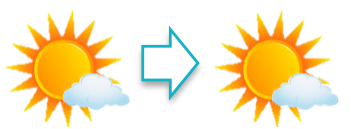
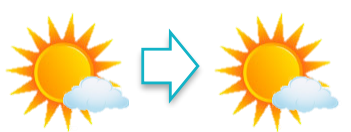
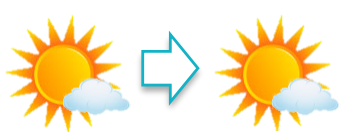
© 2026 TISI Inc.

- 続きまして、2027年3月期の通期業績見通しについてご説明いたします。

2027年3月期における事業環境の認識

TISI TIS INTEC Group

- AI活用の広がりも含めてIT投資は長期的な拡大傾向が続く一方、事業環境の変化に引き続き注視が必要。

		<これまで> <これから>
オファリング サービス	✓ キャッシュレス市場は拡大基調が継続。競争軸は決済単体から顧客接点・データ活用・金融サービスとの一体提供に。 ✓ Embedded Financeの社会実装は進展。ステーブルコインをはじめ、オンチェーン金融に関する制度整備も進み、需要拡大の期待が高まる。 ✓ サイバーセキュリティは事業継続を左右する経営課題として、投資強化が不可欠。 ✓ ASEAN経済は底堅く推移。ASEANデジタル経済協定に伴うIT投資増に期待。	
BPM	✓ 人手不足の常態化を背景に、AIエージェントを前提とした業務プロセス再設計が進み、高度BPM需要が拡大。 ✓ AI活用とBPO運用を一体化した実装型サービスや付加価値型BPaaSが選好され、労働集約型単純BPOは縮小均衡。	
金融IT	✓ 金融機関は競争力強化と規制・セキュリティ対応の両面でIT投資を継続。基幹系を含むモダナイゼーションニーズも底堅い。 ✓ AIは業務効率化や顧客対応で活用が進み、既存システムと連動した実装・定着が重要に。 ✓ 決済手段の多様化、外部連携、不正検知等、業務プロセス全体を見据えたシステム投資も増大。	
産業IT	✓ 製造業を中心に、コスト上昇の影響は続くものの、価格転嫁、効率化で景況感が改善し、設備投資意欲は高水準。 ✓ 人手不足対応や競争力強化に向け、GX、モダナイゼーション、ERP更改、スマートファクトリー等への投資意欲は底堅い。 ✓ 外食、サービス、小売業はコスト上昇が収益を圧迫。省人化や価格最適化等による収益確保が重要テーマ。	
広域IT ソリューション	✓ 金融・保険分野では次世代システムやデジタルチャネル強化への投資が強まる。地域金融機関では再編・提携とデジタル化が並行して進展。 ✓ 証券分野では資産形成ニーズや規制対応、セキュリティ強化を背景に投資が堅調。 ✓ 生損保は金利環境の変化や資本政策見直しを踏まえ、IT基盤の高度化や顧客接点強化を重視。 ✓ 自治体はシステム標準化対応と並行し、標準化後の業務DXやデータ活用への関心が高まる。 ✓ 医療分野は医療DXを背景に情報の標準化・連携、データ基盤構築が中期的テーマとして定着。	

© 2026 TISI Inc.

*TISインテックグループの顧客動向も参考にしているため、一般の状況と異なる場合があります。

- 17ページは、2027年3月期における事業環境の認識です。
- AI活用の広がりも含め、IT投資は長期的な拡大傾向が続くと見ています。
- 一方で、事業環境の変化には引き続き注視が必要です。たとえば決済分野では、競争軸が決済単体から、顧客接点やデータ活用、金融サービスとの一体提供へと移りつつあります。また、サイバーセキュリティは事業継続を左右する経営課題となっており、金融機関をはじめ、規制対応とあわせたセキュリティ強化への投資が求められています。さらに、業種によってはコスト上昇が収益を圧迫しており、こうした動向も注視しています。
- こうした変化を的確に捉えて提供価値を高めることで、良好な事業環境を当社の成長につなげていきます。

2027年3月期
業績予想の修正について①

- 上期実績の上振れに加え、好調な受注状況を踏まえて下期計画も引き上げ、通期計画を上方修正。

（百万円）	2027年3月期 期初計画	2027年3月期 修正計画	期初計画比	
売上高	620,000	**635,000**	+15,000	(+2.4%)
営業利益	81,000	**83,000**	+2,000	(+2.5%)
営業利益率	13.1%	**13.1%**	+0.0P	–
親会社株主に帰属する 当期純利益	57,000	**57,500**	+500	(+0.9%)
当期純利益率	9.2%	**9.1%**	▲0.1P	–
1株当たり当期純利益(円)	271.70	**273.48**	+1.78	(+0.7%)
ROE	17.5%	**17.7%**	+0.2P	–

© 2026 TISI Inc.

*2027年3月期計画のROEは、試算値。

- 18ページは、今回の業績予想の修正内容です。
- 上期実績が計画を上回ったことに加え、受注が好調に推移していることを踏まえて下期計画も引き上げ、通期業績予想を上方修正しました。
- 売上高は期初計画から150億円増の6,350億円、営業利益は20億円増の830億円、親会社株主に帰属する当期純利益は5億円増の575億円としました。
- 引き続き、案件獲得と受注の積み上げに注力し、グループ一体となって修正計画の達成を確実なものにしてまいります。

2027年3月期
業績予想の修正について②

（百万円）		2027年3月期 期初計画	2027年3月期 修正計画	期初計画比	
オファリング サービス	売上高	164,100	**172,500**	+8,400	(+5.1%)
	営業利益	11,250	**11,100**	▲150	(▲1.3%)
	営業利益率	6.9%	**6.4%**	▲0.5P	–
BPM	売上高	44,300	**45,500**	+1,200	(+2.7%)
	営業利益	6,250	**6,550**	+300	(+4.8%)
	営業利益率	14.1%	**14.4%**	+0.3P	–
金融IT	売上高	108,500	**112,500**	+4,000	(+3.7%)
	営業利益	14,900	**15,500**	+600	(+4.0%)
	営業利益率	13.7%	**13.8%**	+0.1P	–
産業IT	売上高	137,000	**140,000**	+3,000	(+2.2%)
	営業利益	23,100	**24,300**	+1,200	(+5.2%)
	営業利益率	16.9%	**17.4%**	+0.5P	–
広域IT ソリューション	売上高	191,000	**191,000**	–	–
	営業利益	25,000	**25,000**	–	–
	営業利益率	13.1%	**13.1%**	–	–

© 2026 TISI Inc.

- 19ページでは、セグメント別の業績予想の修正内容をお示ししています。
- 「オファリングサービス」は、上期の実績等を踏まえ、売上高を引き上げた一方、営業利益は引き下げました。

2027年3月期
業績予想ハイライト

- 中期経営計画の目標達成に向けて、投資を継続しながら事業拡大を図り、増収増益を計画。
- 投資有価証券の売却方針に基づき、想定される特別利益50億円を織り込み、当期純利益は大幅増の見通し。中期経営計画（2024-2026）の重要な経営指標であるEPS CAGR10%及びROE16%超の達成も見込む。

（百万円）	2026年3月期 実績	2027年3月期 修正計画	前期比	
売上高	596,479	**635,000**	+38,520	(+6.5%)
営業利益	76,229	**83,000**	+6,770	(+8.9%)
営業利益率	12.8%	**13.1%**	+0.3P	–
親会社株主に帰属する当期純利益	46,624	**57,500**	+10,875	(+23.3%)
当期純利益率	7.8%	**9.1%**	+1.3P	–
1株当たり当期純利益(円)	204.91	**273.48**	+68.57	(+33.5%)
ROE	14.0%	**17.7%**	+3.7P	–

© 2026 TISI Inc.

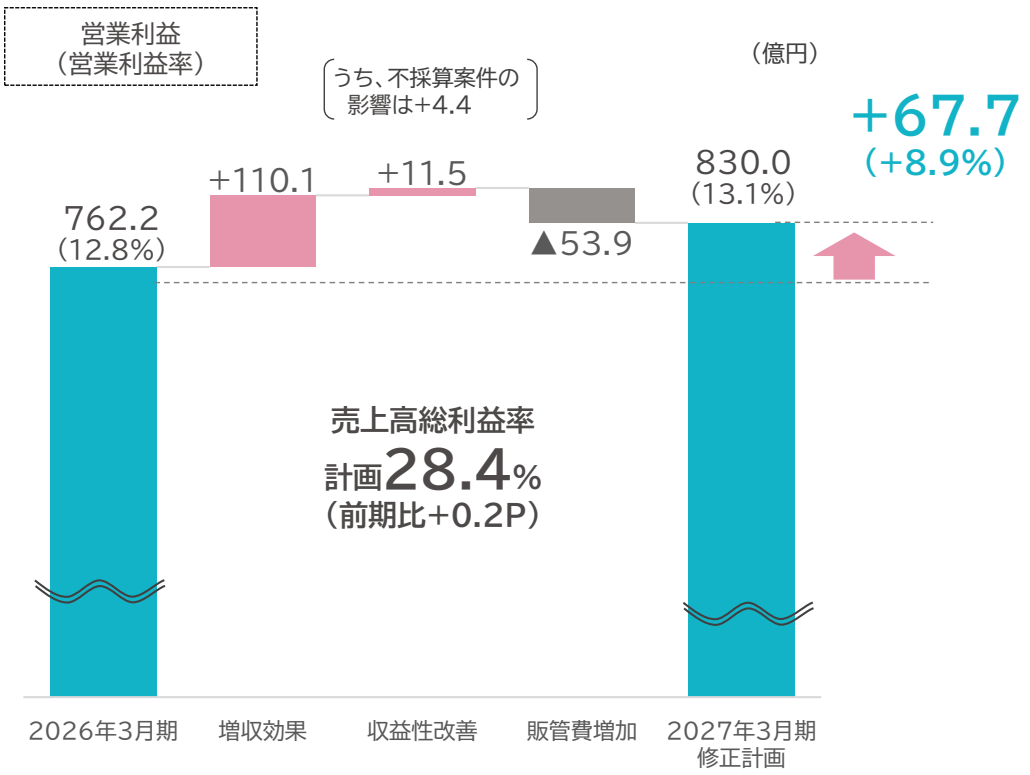
*2027年3月期計画のROEは、試算値。

- 20ページは、今申し上げた修正計画を前期比で示したものです。
- 売上高は前期比6.5%増、営業利益は前期比8.9%増、営業利益率は前期比0.3ポイント増の13.1%を計画しています。

2027年3月期
営業利益要因別増減分析（予想）

TISI
TIS INTEC Group

- 継続的な成長投資に加え、前期比＋40億円の報酬投資を計画する中でも、旺盛なIT投資需要を背景とする増収効果や高付加価値ビジネスの提供や生産性向上施策の推進等により、営業増益を見込む。



＜販管費増減＞

	前期比
連結子会社異動影響等	+4.0
成長投資	+4.8
施策推進	+24.5
合併関連	+10.9
その他経費	+9.6
計	+53.9

＜成長投資＞
（人材投資・研究開発投資・ソフトウェア投資）

	前期比
売上原価	+8.6
販管費	+4.8
計	+13.5

© 2026 TISI Inc.

- 21ページは、修正計画に基づく営業利益の要因別増減分析です。
- 売上高総利益率は、上期の粗利率が想定通りの水準とならなかったことを踏まえ、期初計画の29.0%から28.4%に引き下げますが、前期比では0．2ポイント上昇する見込みです。
- 継続的な成長投資に加えて、前期比40億円増の報酬投資を計画する中でも、旺盛なIT投資需要を背景とする増収効果や、高付加価値ビジネスの提供、生産性向上施策の推進等により、期初計画を上回る営業増益を目指してまいります。

2027年3月期
主要セグメント別損益状況(予想)

(百万円)		2026年3月期 実績	2027年3月期 修正計画	前期比		概況
オファリング サービス	売上高	160,574	172,500	+11,925	(+7.4%)	決済、基盤系を中心としたIT投資需要を取り込み増収増益。海外事業等の収益性低下により営業利益率は低下。
	営業利益	10,442	11,100	+657	(+6.3%)	
	営業利益率	6.5%	6.4%	▲0.1P	–	
BPM	売上高	44,092	45,500	+1,407	(+3.2%)	成長領域の投資強化の中で、注力領域として位置づけるDX事業の伸長により増収増益。
	営業利益	6,397	6,550	+152	(+2.4%)	
	営業利益率	14.5%	14.4%	▲0.1P	–	
金融IT	売上高	98,730	112,500	+13,769	(+13.9%)	既存顧客深耕やモダナイゼーションの拡大を含めた新規顧客の需要取り込みにより増収増益。
	営業利益	12,729	15,500	+2,770	(+21.8%)	
	営業利益率	12.9%	13.8%	+0.9P	–	
産業IT	売上高	133,396	140,000	+6,603	(+5.0%)	既存顧客深耕や業界軸の強み強化・サービス拡大、ERP関連のIT投資需要の取り込みにより増収増益。
	営業利益	22,507	24,300	+1,792	(+8.0%)	
	営業利益率	16.9%	17.4%	+0.5P	–	
広域IT ソリューション	売上高	184,238	191,000	+6,761	(+3.7%)	ネットワーク関連の需要拡大に加え、産業系、金融系の幅広い顧客のIT投資需要等の取り込み、および不採算案件の抑制により増収増益。
	営業利益	23,328	25,000	+1,671	(+7.2%)	
	営業利益率	12.7%	13.1%	+0.4P	–	

© 2026 TISI Inc.

(説明省略)

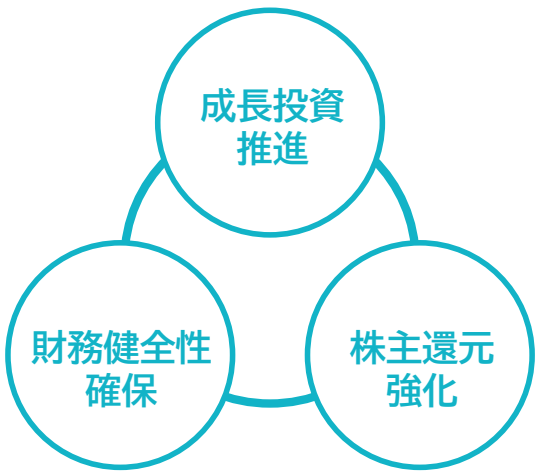
1　2027年3月期第2四半期(中間期) 業績概要
2　2027年3月期 業績見通し
3　株主還元
4　今後の成長に向けた取り組み
5　参考資料

© 2026 TISI Inc.

- 私からのご説明の最後として、株主還元についてご説明します。

株主還元の基本方針

- 成長投資の推進・財務健全性の確保・株主還元の強化のバランスのもと、資本構成の適正化を推進し、資本効率性の向上を目指す。



成長投資の推進
- 成長投資3年累計約1,000億円
- 事業ポートフォリオ最適化への積極投資
- 資本コストを上回るリターンの持続的創出、エクイティスプレッド拡大の追求

株主還元の強化
- 総還元性向50%(目安)
- 1株当たりの配当充実の継続
- 保有する自己株式は原則発行済株式総数の5%程度、超過分は消却

財務健全性の確保
- キャッシュ創出力の向上に応じた資本構成の適正化を意識し、D/Eレシオ0.5まで許容
- 格付「A格」の維持　※2025/11/19現在「A+」
- 現預金水準をコミットメントライン併せ月商2ヶ月程度保有

総還元性向
50%*

1株当たり配当
継続的な充実化

自己株式保有
5%程度を上限

© 2026 TISI Inc.

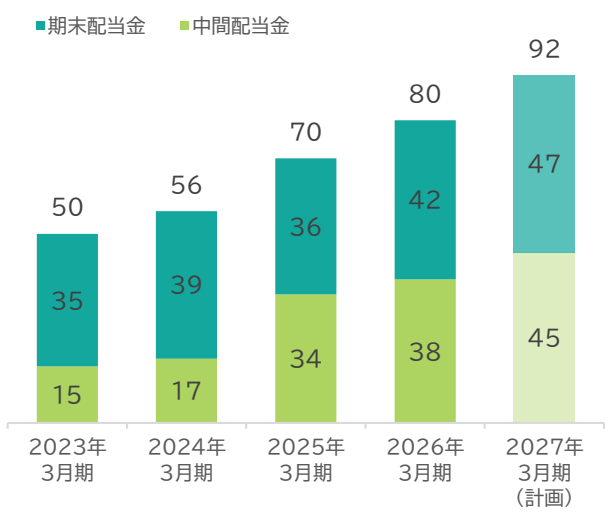
*営業活動から得られた利益(法人税等・非支配株主利益控除後)をもとに算出

（説明省略）

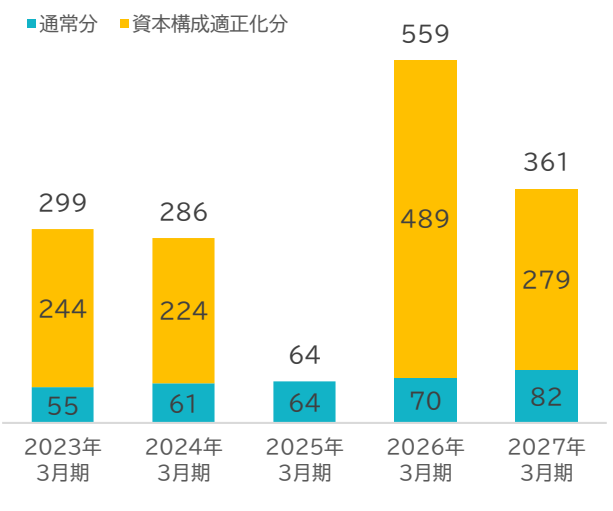
株主還元の状況・計画

- 通期業績見通しの引き上げを踏まえ、期末配当予想を当初計画から2円引き上げた1株当たり47円(前期比+5円)とし、年間配当予想は1株当たり92円(前期比+12円)。
- 2026年3月から5月にかけて取得した約500億円の自己株式については、8月に消却済み。

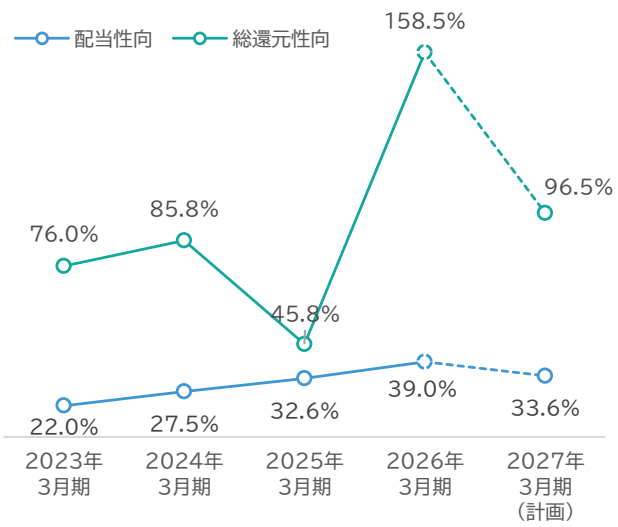
1株当たり配当金の推移(円)



自己株式取得総額の推移(億円)



配当性向・総還元性向推移



当社の株主還元方針に基づく配当性向・総還元性向推移

配当性向(補正後)*1	30.3%	30.7%	35.7%	35.3%	35.0%
総還元性向(補正後)*1,2	44.0%	44.9%	49.8%	49.0%	50.0%

*1:営業活動から得られた利益(法人税等・非支配株主利益控除後)をもとに算出
*2:資本構成の適正化を図る一環としての自己株式の取得を除いて算出

© 2026 TISI Inc.

- 基本方針の再掲となる24ページについての説明は割愛させていただき、25ページをご覧くださ
  い。
- 通期業績見通しの引き上げを踏まえ、期末配当予想を当初から2円引き上げ、前期比5円増となる1株当たり47円の増配を予定しています。これにより、1株当たり年間配当金は前期比12円増配の92円となる見込みです。
- 自己株式については、2026年3月から5月にかけて取得した約500億円の自己株式を、8月に消却いたしました。

- 以上で、私からの説明を終了させていただきます。

1 2027年3月期第2四半期(中間期) 業績概要

2 2027年3月期 業績見通し

3 株主還元



4 今後の成長に向けた取り組み

5 参考資料

© 2026 TISI Inc.

- TISI 岡本です。あらためまして、本日は、当社決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。
- それでは、私の方から、「今後の成長に向けた取り組み」について、ご説明させていただきます。

中期経営計画(2024-2026)の要旨

TISI TIS INTEC Group

基本方針

Frontiers 2026

フロンティア開拓を基本方針として掲げ、**付加価値を伴った持続的成長**をめざす
未来志向で市場開拓と**事業領域の拡大**を起点とした
バリューチェーン全般の質的向上により、**社会と顧客の変革**を実現

重要経営指標

人材成長と付加価値の循環	稼ぐ力の向上	資産(=知財)の価値創出	社会からの信頼の獲得	価値ある成長
PH営業利益 **3.5百万円超**	営業利益率 **13.1%** 調整後営業利益率13.4%*1	ROIC/ROE **13%超/16%超**	売上高 **6,200億円**	EPS CAGR **10%超**

基本戦略

市場戦略

- 社会課題と自社の強みを踏まえて定義した成長領域に対して経営資源を集中投下
- 事業の高付加価値化とテクノロジー投資強化の両輪でASEAN中心にスピード感を持ってビジネスを拡大

サービス戦略	テクノロジー戦略	知財戦略	人材戦略
● 上流～業務アウトソーシングまでサービスのフルバリューチェーン化 ● 4つの社会課題*2をターゲットとしたピュアサービス*3の拡充	● ナレッジ流通とITアーキテクトの育成と再配置の仕組みを進化 ● AI×自動化によるプロセス再開発	● 付加価値の向上と事業規模拡大の両立のため、一層の知財蓄積・利活用を推進 ● 顧客接点情報のフィードバック強化による知財創出の促進	● コンサルタント700名体制への増員とコンサルティング基礎スキル一般化による課題解決力強化 ● 先鋭人材の獲得・育成と人材の機動的再配置の仕組みを整備

*1 調整後営業利益率:営業利益にのれんの償却費を足し戻した値をもとに算出
*2 「金融包摂」「都市への集中・地方の衰退」「低・脱炭素化」「健康問題」の4つ。2050年の世界からのバックキャストを行い、当社グループとして解決に貢献すべき社会課題として選定
*3 基本的に全ての顧客に画一的な仕様を提供するサービスの形態

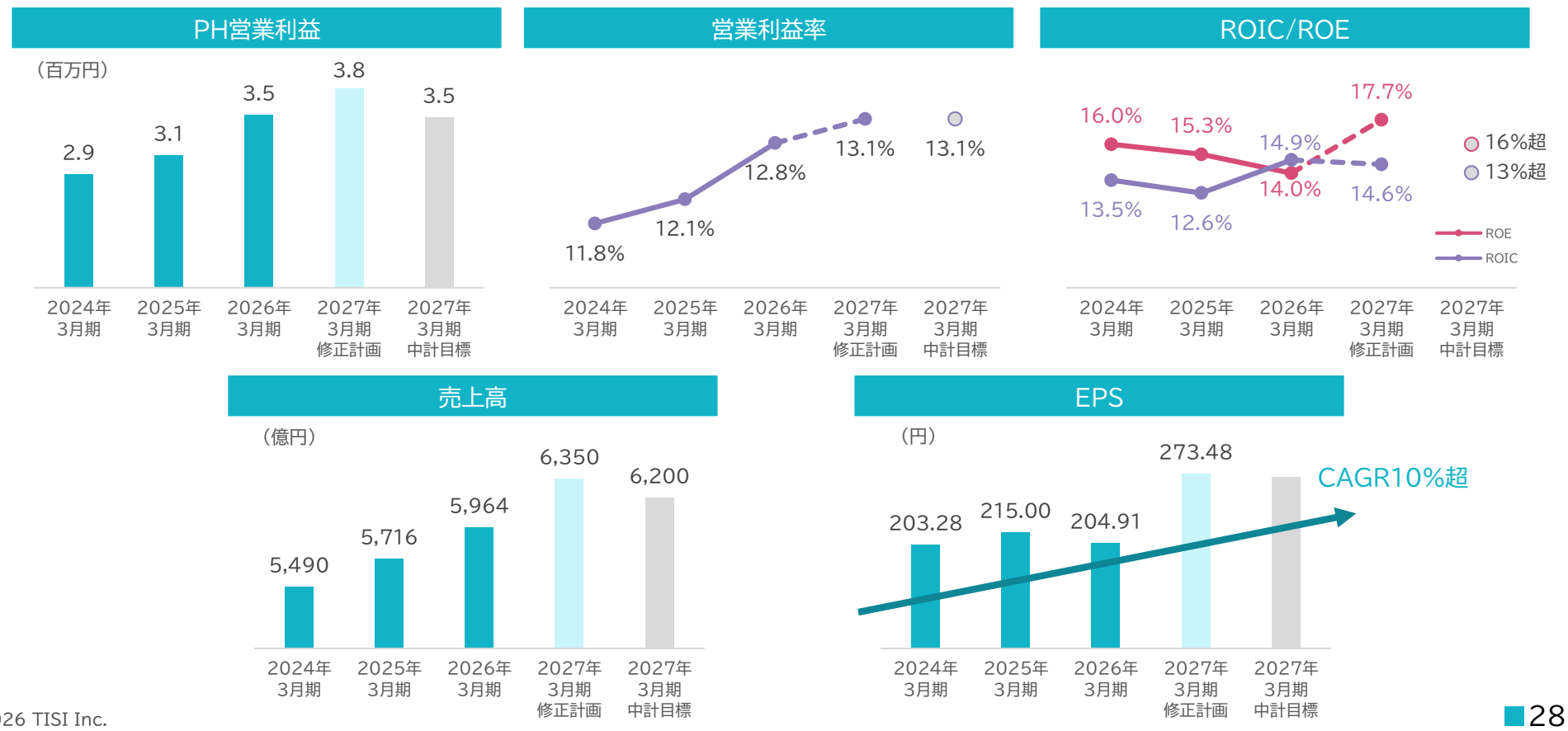
© 2026 TISI Inc.

- 27ページは、現在の中期経営計画の要旨を再掲しています。
- 本計画は3か年のうち2年半が経過し、残り半年となりました。次の2ページで、これまでの取り組みと成果を、定量・定性の両面から振り返ります。

中期経営計画(2024-2026)における重要な経営指標の進捗状況

TISI TIS INTEC Group

- 好調な業績により中期経営計画の目標は全指標で達成の見通し。



© 2026 TISI Inc.

- 28ページは、中期経営計画における重要な経営指標の進捗状況です。
- 好調な業績により、すべての指標で中期経営計画の目標を達成できる見通しです。特にROEは17.7%と、目標の16%超を大きく上回る見通しです。
- 中期経営計画を発表した当初は、高い目標を掲げたチャレンジングな計画だと認識していましたが、最終年度を迎えた今、達成への手応えは期初の段階と比べても強まっています。
- 業績の拡大を牽引したのは、顧客のIT投資需要を捉えたSIが想定を上回って伸長したことです。
- 外部環境の追い風もありましたが、高い目標でも必ず達成するという強い意思のもと、グループ一体となって取り組みを着実に進めてきた成果だと考えています。
- 最終年度の下期も、計画の達成を確実なものにすべく、着実に取り組んでまいります。
- 一方で、売上高総利益率は、今回の修正計画で前期比0.2ポイント改善の28.4%にとどまり、期初計画の29.0%、中期経営計画の目標である30.0%をいずれも下回る見通しです。この点は、次ページで課題としてご説明します。

中期経営計画(2024-2026)に対する取り組み 2026年3月期総括

- 中期経営計画2年目として成果を着実に積み上げるも、市場戦略におけるセグメント個別課題への対応強化に加えて、業界再編による競争環境変化およびAIによる技術革新等の動向を踏まえた各戦略の推進が必要となる。

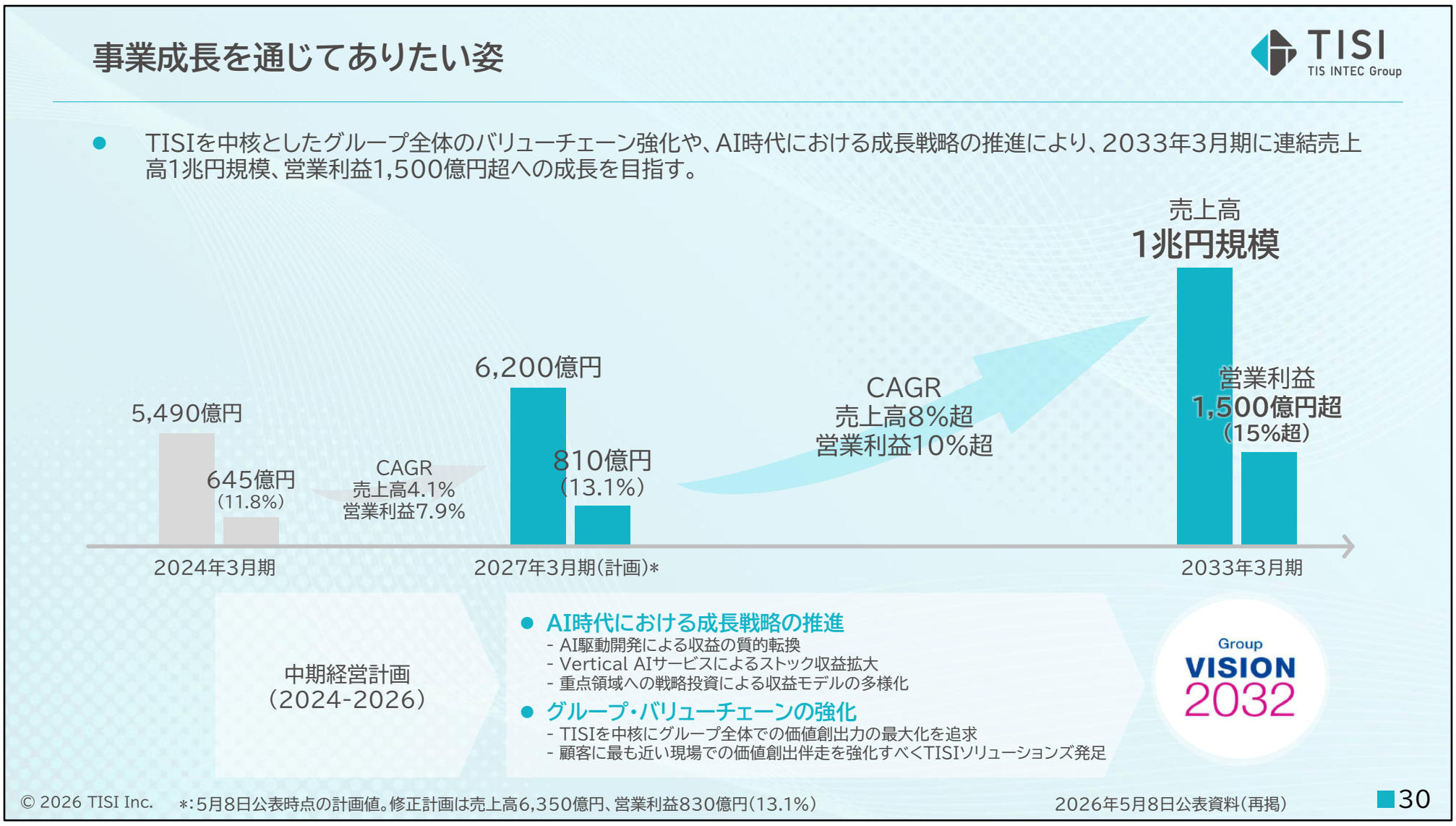
市場戦略 ○

- オファリングサービスおよび広域ITソリューションでは、決済分野での先行投資強化や公共領域での低採算・不採算案件発生による収益性悪化の影響があったものの、IT投資需要への的確な対応等による他セグメントの伸長により、全体では期中に上方修正した売上高・営業利益公表値を達成、前年比増収・増益となった
- グローバル事業では、引き続き収益性に課題はあるものの、ASEAN中心に事業規模を着実に拡大

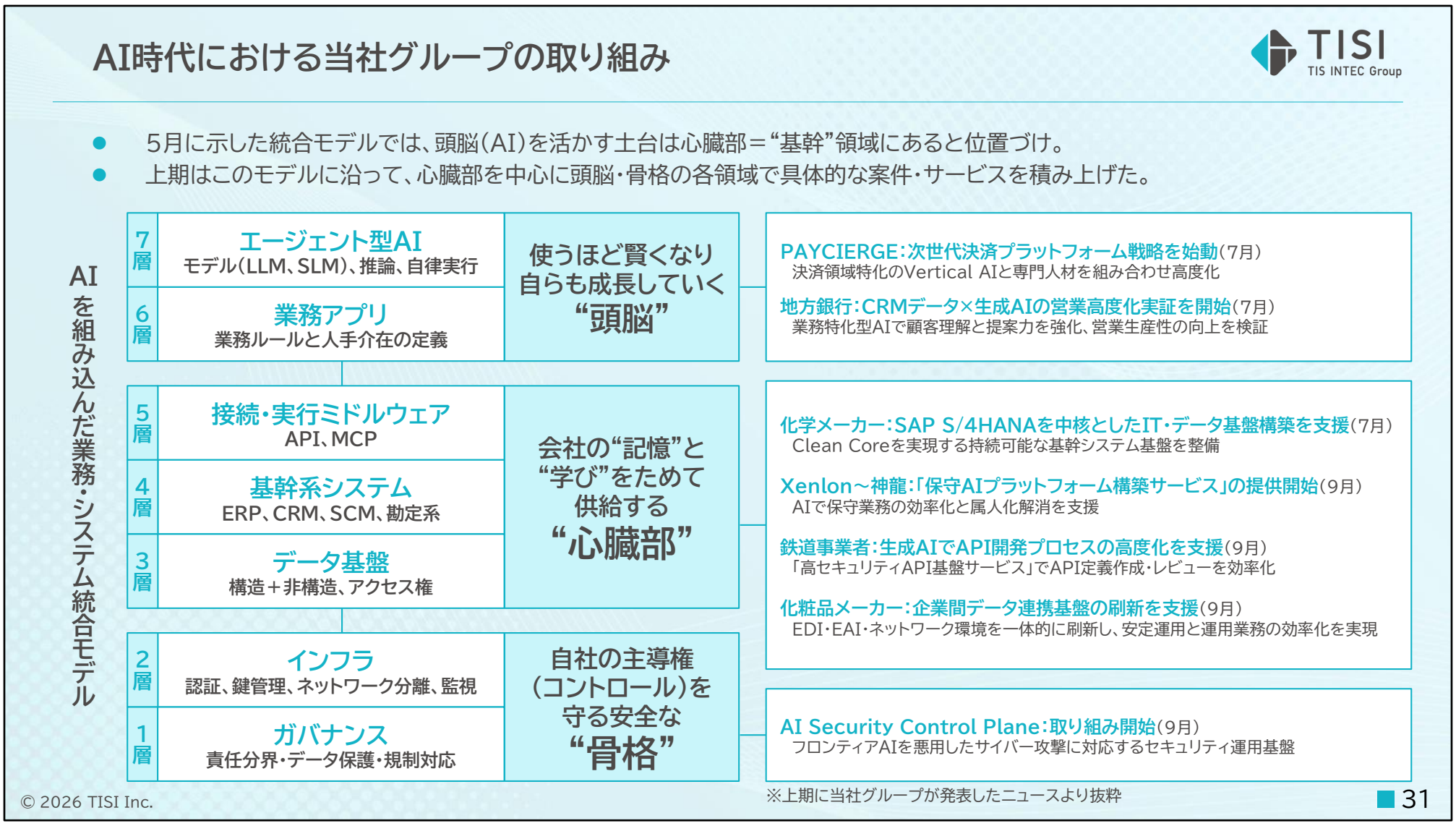
サービス戦略 △	テクノロジー戦略 △	知財戦略 ○	人材戦略 ○
● 業界軸では金融・産業それぞれで展開しているモダナイゼーションサービスの受注が拡大、着実にPJを推進 ● 機能軸ではクレジット(ライト版)を展開するも受注停滞、また決済分野での先行投資強化により収益性が低下 ● サービスのフルバリューチェーン化に向けて、UI/UXデザイン、AI・データ分析機能を統合	● AIの間接業務利用が日常化、またAI駆動型開発により、開発生産性50%向上を目指し、順次PJ適用開始 ● 計画通りの進捗ではあるものの、外部環境を踏まえて、AI適用範囲の拡大やビジネスの高付加価値化について、早期に本格的な成果創出が必要であり、全社PJとしての取り組みを加速	● 顧客接点情報やソリューション提供における知見・課題解決ノウハウを知財として集約し、新たな価値提供を創出する情報基盤や教育プログラムを整備し運用開始 ● 熟練SEが持つ暗黙知の形式化により、AI駆動開発による案件回転率向上を目指し、スピードと質の向上への取り組みを推進	● 人的資本シナリオを基にした重点施策の推進により、報酬投資を強める中でも、PH営業利益3.5百万円となり中期経営計画目標を1年前倒しで達成 ● 働きがい満足度は59%となり、2027年3月期目標の58%を前倒しで達成 ● AI活用による開発・業務プロセスの変化を踏まえ、人材戦略の最適化を推進

© 2026 TISI Inc.

- 29ページは、5月の決算説明会でお示しした、中期経営計画2年目である2026年3月期の総括の再掲です。
- 5月の時点では、成果を着実に積み上げた一方で、サービス戦略と、AIによる技術革新などの外部環境の変化を踏まえたテクノロジー戦略に課題があるとの認識をお示ししました。
- この認識は現在も変わっておらず、最終年度である今期は、評価を「△」としたこの2つの戦略に重点的に取り組んでいます。
- 先ほど申し上げた売上高総利益率の伸び悩みは、このうちサービス戦略の遅れによるところが大きいと考えています。決済分野での先行投資を強化したことに加え、収益性の高いサービスメニューを十分に拡充できなかったことが影響しています。
- サービス戦略については、縦と横の連携を強め、収益性の高いサービスの創出と展開を進めてまいります。その考え方は、35ページ以降でご説明します。
- テクノロジー戦略では、AI駆動開発のプロジェクトへの適用を進めています。AIの取り組みについては、34ページで改めてご説明します。
- これらの課題については、今期中に改善の道筋をつけ、次期中期経営計画に対応策を織り込んでまいります。



- 30ページは、5月8日の決算発表でお示しした、事業成長を通じて当社グループがめざす姿です。
- 前ページで申し上げた課題への対応も、この姿の実現に向けた取り組みの中に位置づけています。
- 当社グループは、「グループビジョン2032」のターゲットである2033年3月期に連結売上高1兆円規模、営業利益1,500億円超への成長をめざしており、この実現に向けて年平均成長率は、売上高8%超、営業利益10%超と、成長のスピードを一段と高めていく計画です。
- その実現に向けて、AI時代における成長戦略の推進と、グループ・バリューチェーンの強化を進めてまいります。



- 31ページは、前のページでお示しした「AI時代における成長戦略の推進」について、当社グループの上期の取り組みをご紹介するものです。
- 左側は、5月の決算発表でお示しした、AIを組み込んだ業務・システム統合モデルです。
- 下の層は自社の主導権を守る安全な「骨格」、中間の層は会社の記憶と学びをためて供給する「心臓部」、上の層は使うほど賢くなる「頭脳」です。
- 頭脳であるAIを活かすためには土台がしっかりしていることが重要であり、中でも心臓部である基幹領域が極めて重要な役割を担うと考えています。
- 右側は、このモデルに沿って当社グループが上期に発表した主な取り組みを、3つの領域ごとに整理したものです。
- 心臓部である基幹領域を中心に、頭脳と骨格の領域でも、案件の受注やサービスの提供開始といった具体的な成果につながっています。

「PAYCIERGE」の次世代決済プラットフォーム戦略

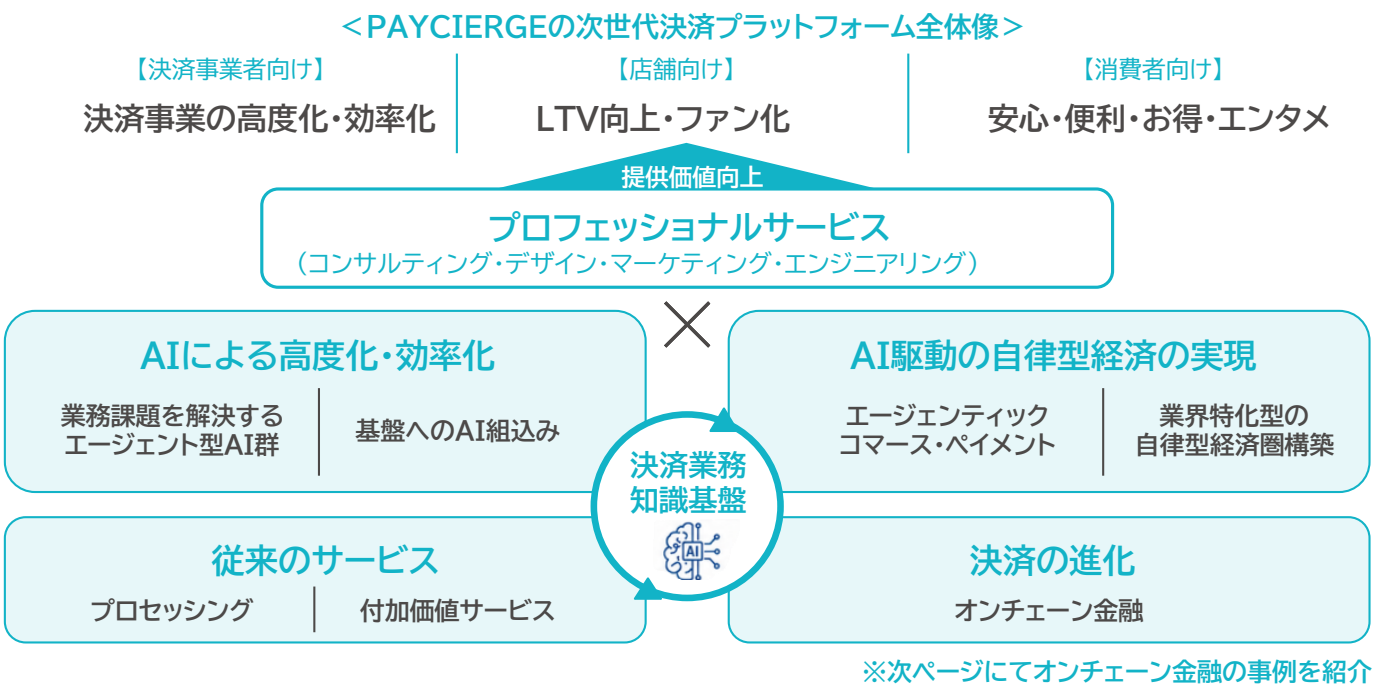
TISI TIS INTEC Group

- 決済領域のVertical AIと次世代決済技術でPAYCIERGEを進化させ、ストック型事業の拡大を目指す。

強みの源泉

クレジットカード
基幹システム開発実績
約50%
国内シェア※1

ブランドデビットカード
関連サービス提供/システム開発実績
80%以上
国内シェア※2



※次ページにてオンチェーン金融の事例を紹介

※1 クレジット取扱高主要25社における当社取引先の年間取扱高ベース
※2 関連サービス提供／システム開発での実績、取扱金融機関ベース（いずれも当社調べ）

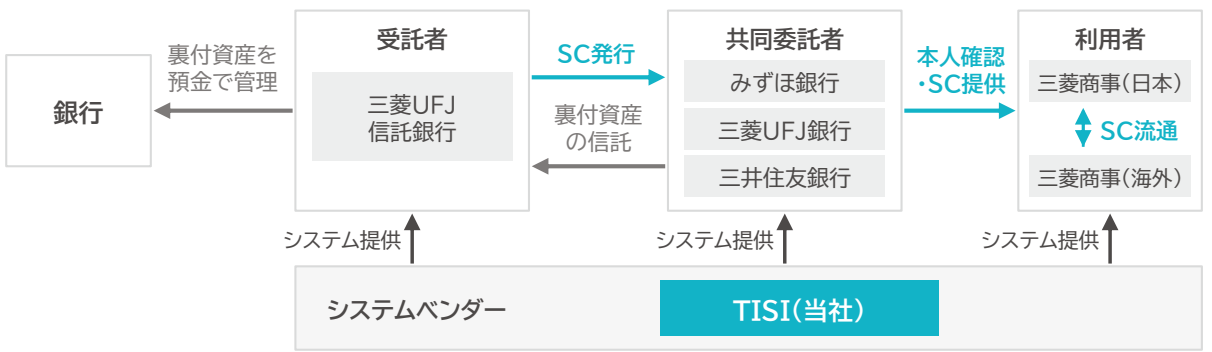
© 2026 TISI Inc.

- 32ページは、7月に発表した「PAYCIERGE」の次世代決済プラットフォーム戦略です。先ほどの統合モデルでは、頭脳の領域にあたります。
- 当社は、クレジットカード基幹システムやブランドデビットで高い国内シェアを持ち、長年にわたり国内の決済インフラを支えてきました。
- こうして培ったシステムと業務の知見を土台に、決済領域のVertical AIと次世代決済技術で進化させ、ストック型事業を拡大してまいります。
- また、決済の進化の一つとして、ステーブルコインをはじめとするオンチェーン金融にも取り組んでいます。オンチェーン金融は、これからの決済のあり方を変え、新たな事業機会を生む有望な領域だと考えています。決済インフラを支えてきた実績と知見があるからこそ、当社はこの領域にいち早く取り組むことができています。
- 次ページでは、このオンチェーン金融の事例をご紹介します。

複数銀行によるステーブルコイン共同発行等に関する実証実験に参画

- 3メガバンク等によるステーブルコイン共同発行・クロスボーダー決済高度化の実証実験において、金融レベルのセキュリティや実運用を見据えた技術力が評価され、当社が本実証に必要な基盤提供・技術支援を担当

本実証の実施スキーム



当社の役割

ステーブルコイン発行等に関するシステムのインテグレーションおよび基盤提供

先進的なブロックチェーン技術と金融システムの知見により、ステーブルコイン発行システムおよび業務プロセスを実装したウォレット基盤のシステムイングレーションを実施

実証実験の概要

金融庁「Fintech実証実験ハブ・決済高度化プロジェクト(PIP)」の支援案件として、三菱商事における国内外拠点間でのクロスボーダー決済を対象に実施

実証実験の成果

ステーブルコインの発行・流通に関する実務的知見が得られ、システムの安全性と信頼性、複数銀行による共同発行モデルの実現性を確認

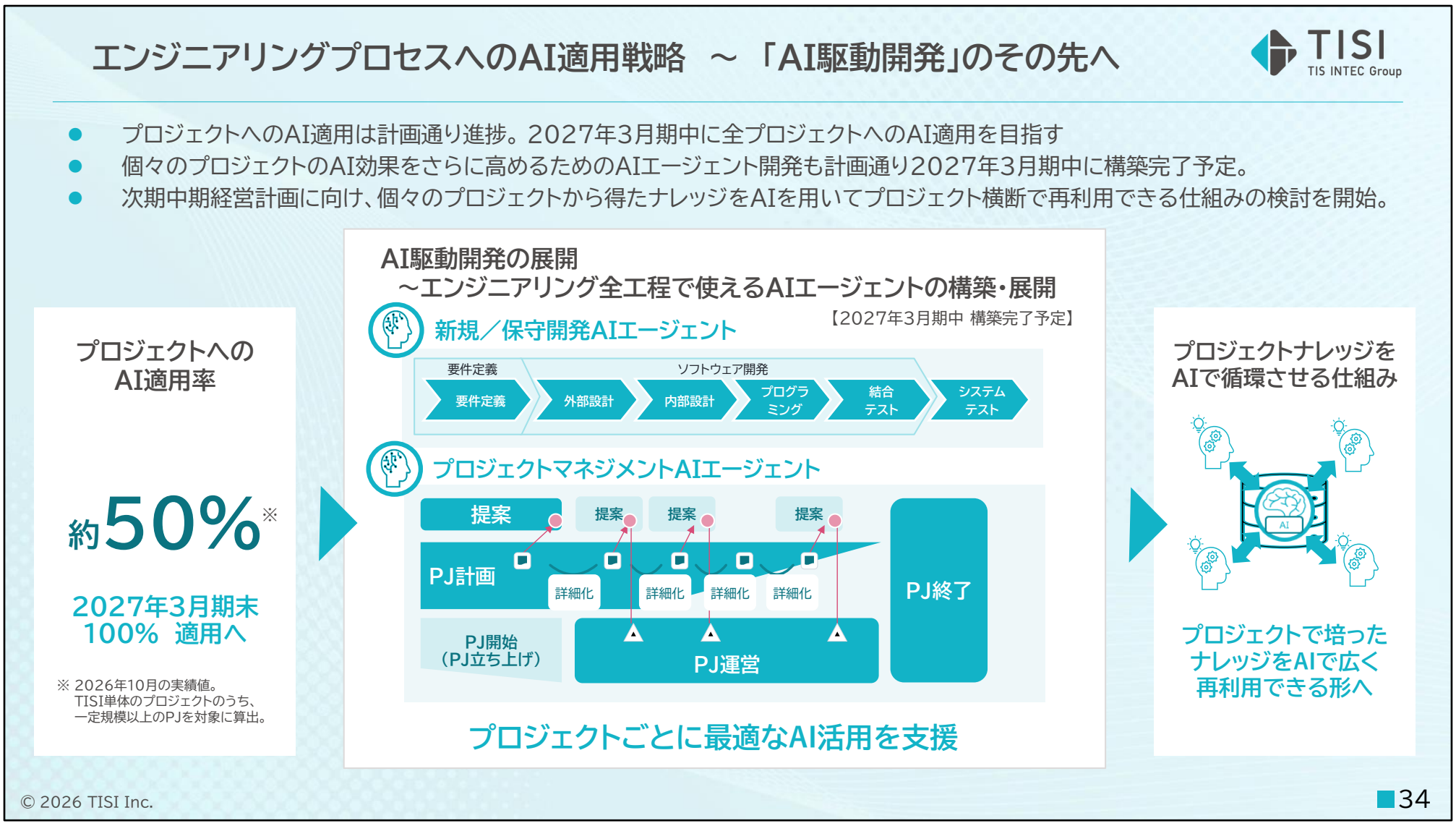
商用化に向けた展望

本実証実験の結果を踏まえ、3メガバンク共同で発行するステーブルコインの実取引について2026年度中での実施に向けて検討

オンチェーン金融の社会実装に向けた多方面での取り組みを継続し、新たな金融サービス市場を牽引するポジションを目指す

© 2026 TISI Inc.

- 33ページは、当社のオンチェーン金融への取り組み事例として、複数銀行によるステーブルコイン共同発行等に関する実証実験への参画をご紹介いたします。
- 本実証は、3メガバンク等によるステーブルコインの共同発行と、クロスボーダー決済の高度化を検証するものです。金融レベルのセキュリティや実運用を見据えた技術力をご評価いただき、当社が本実証に必要な基盤提供・技術支援を担当いたしました。
- 本実証の結果を踏まえ、3メガバンクが共同で発行するステーブルコインの実取引について、2026年度中の実施に向けた検討が進められております。
- さらに、当社は10月30日に別のステーブルコインの取り組みも発表いたしました。こちらは、国内のクレジットカード決済ネットワークを運営する事業者様と共同で、ステーブルコインを使った店頭決済の実証実験を実施したものです。
- このように当社は、発行から流通、店頭での決済まで、オンチェーン金融の社会実装に向けた多方面での取り組みを進めております。
- こうした取り組みを継続し、新たな金融サービス市場を牽引するポジションを目指してまいります。



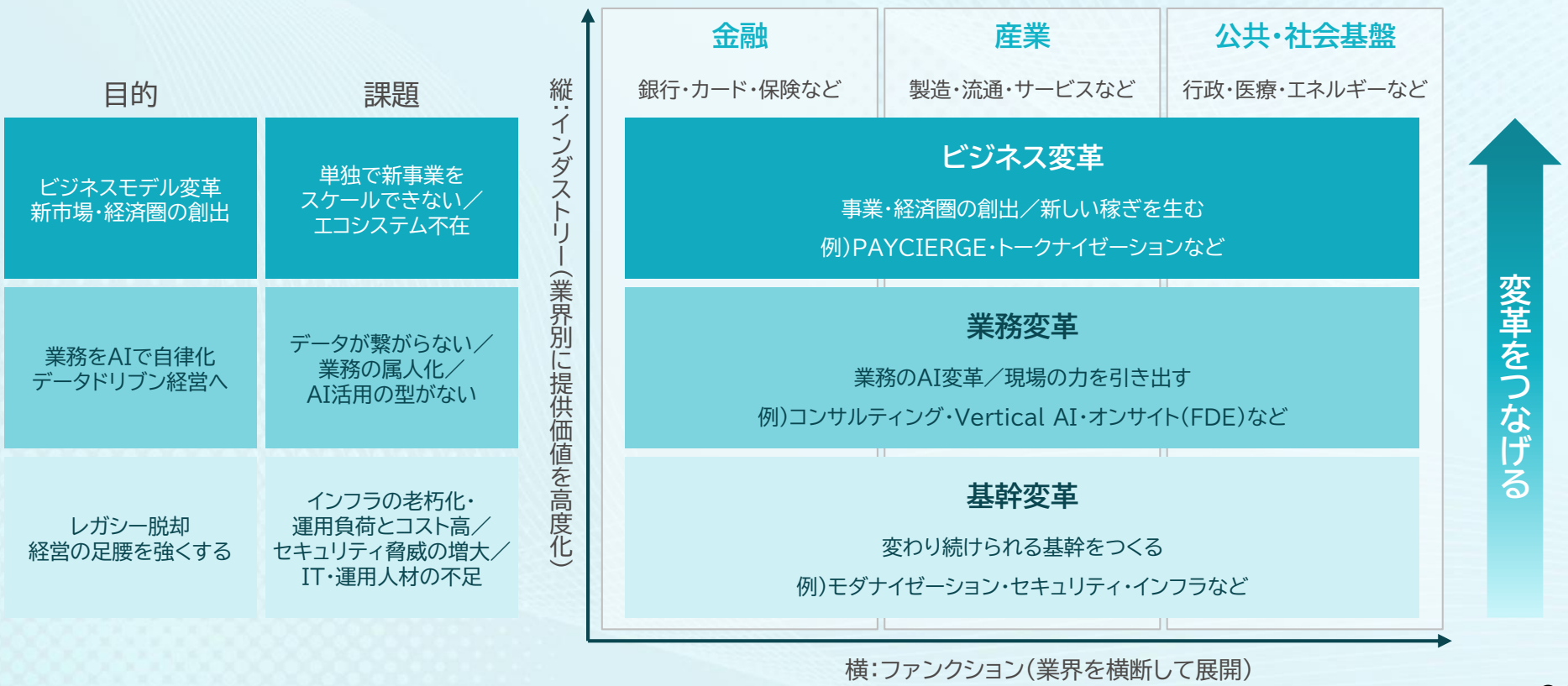
- 34ページは、当社自身のAI活用、「AI駆動開発」の取り組みです。
- AIの急速な進化を取り込むため、プロジェクトへのAI適用を進めています。適用率は現在約50%で、2027年3月期末には100%をめざします。
- 当社はお客様のシステムをお預かりする立場として、AIを安全に使える環境と社内ルールの整備を慎重に進めてきました。こうした準備が整い、利用は急速に広がっています。
- 当期末までに開発の各工程とプロジェクトマネジメントにAIエージェントを組み込む環境の構築を完了し、活用のレベルを高めて生産性の向上につなげてまいります。
- さらに、各プロジェクトで得たナレッジを蓄積し、プロジェクト横断で再利用する仕組みの検討も始めています。AIを前提に開発のあり方そのものを進化させる会社をめざし、次期中期経営計画も見据えて取り組みを進めてまいります。



- 35ページは、当社グループの成長をさらに加速させるための事業モデルの考え方です。
- 次期中期経営計画に向けて現在議論を重ねているところですが、その方向性を先行してご紹介します。
- お客様がSIerに求めるものは、システムの構築にとどまらず、経営課題の解決や事業の成長にまで広がっています。
- こうしたご期待にお応えするのが、業界ごとにお客様と長く信頼関係を築く「縦」のアカウントビジネスと、サービスを型化して業界を越えてご提供する「横」のサービスビジネスの組み合わせです。
- どちらもこれまで取り組んできたものですが、縦と横がそれぞれ個別に成長をめざしてきたため、互いの業務知見やサービス、顧客接点を十分に生かし合えていなかったことが課題だと考えています。
- そこで、顧客接点を共有して縦と横をつなぎ、「創出・展開・深耕」のサイクルをグループ一体で回す仕組みを整えてまいります。
- こうした取り組みを通じて、お客様との接点を点から面へと広げ、各業界での存在感を高めることで、グループ全体の総和の拡大をめざしてまいります。

総和拡大を支える縦×横の事業モデル　全体像

- 顧客の変革(基幹→業務→ビジネス)に伴走するメニューを、当社グループの強みであるインダストリー×ファンクションの掛け合わせで実現する。



© 2026 TISI Inc.

- 36ページは、前ページでご説明した縦×横の事業モデルの全体像です。
- お客様が抱える課題は、基幹システムの老朽化から業務の属人化、新たな事業の創出まで様々です。当社グループは、縦と位置付ける「インダストリー」と横と位置付ける「ファンクション」を掛け合わせ、それぞれの課題に応じた「基幹変革」「業務変革」「ビジネス変革」に伴走します。
- さらに、基幹からビジネスまでの変革を一つにつなげることで、お客様の変革を継続的に支えてまいります。
- 次期中期経営計画では、この縦×横の事業モデルを軸に取り組みを進めたいと考えています。

代表取締役の異動(社長交代)について

- 新たな経営執行体制のもと、2027年4月1日から開始する次期中期経営計画の着実な遂行を通じて当社グループの持続的な成長と企業価値向上をより一層推進するため、社長交代を決定

■新代表取締役 社長執行役員の紹介 ※2027年4月1日就任予定

中村 清貴（現 取締役 専務執行役員）



＜質と信頼を伴う持続的成長に向けた4つのキーワード＞

- **責任あるAIネイティブ企業への進化**
- **提供価値で稼ぐビジネスモデルへの転換**
- **TISIを核としたグループ総合力の結集**
- **人を育み、社会を支える経営**

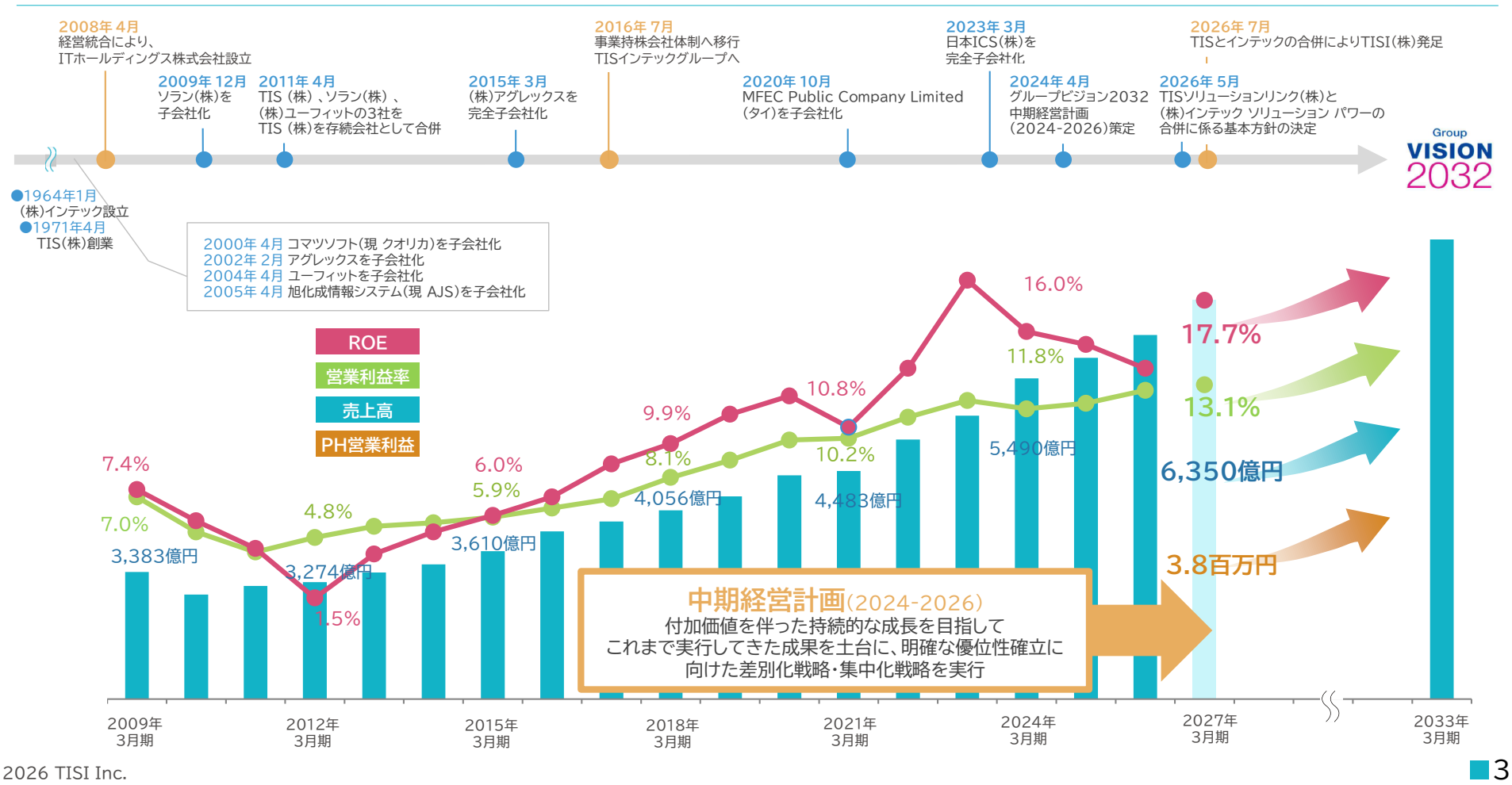
現 代表取締役社長執行役員 岡本 安史は2027年4月1日付で取締役会長へ就任予定。非執行の取締役会長となり、業務執行側を監督する立場からコーポレートガバナンス体制の充実に努める。

© 2026 TISI Inc.

- 37ページにありますとおり、当社は、新たな経営執行体制のもと、2027年4月から開始する次期中期経営計画の着実な遂行を通じて当社グループの持続的な成長と企業価値向上をより一層推進するため、本日開催の取締役会において社長交代について決議いたしました。
- 新しい代表取締役　社長執行役員には、現在、取締役 専務執行役員である中村清貴が2027年4月1日付で就任いたします。
- 本日はご挨拶のみとなりますが、中村を同席させておりますので、皆さまにご紹介させていただきます。

【中村専務】

- このたび、2027年4月1日付で代表取締役　社長執行役員の大役を拝命することとなりました、中村清貴でございます。岡本社長からバトンを受け、これまで築いてきた強固な事業基盤をさらに発展させるとともに、環境変化を新たな成長機会へと変え、TISインテックグループをさらに強く・大きくしていくことが、私に与えられた使命であると認識しています。
- そのために、「責任あるAIネイティブ企業への進化」「提供価値で稼ぐビジネスモデルへの転換」「TISIを核としたグループ総合力の結集」「人を育み、社会を支える経営」の4つを大きなテーマとして取り組んでまいります。
- AIによって価値創造のあり方を変え、提供価値で稼ぐ力を高め、グループの総合力を結集する。そして、そのすべての源泉となる人を育み、社会への価値提供につなげていく。この一連の変革によって、当社グループを次の成長ステージへと進化させてまいります。
- また、今後、重要なステークホルダーである皆さまとも積極的にコミュニケーションを重ねてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



- 中村は、事業部門に加え、企画などのコーポレート部門、さらには海外事業など、幅広い領域で経験を重ねてまいりました。その経験から、AIをはじめとするテクノロジーの進化など、事業環境が大きく変化する中でも、その変化の本質を捉え、新たな成長への道筋を描き、着実に実行に移していく力を獲得してきました。取締役会の諮問機関である指名委員会における審議においてもそうした点が高く評価され、選定されるに至っております。
- 当社グループがこれまで培ってきた強みを受け継ぎながら、変革を通じて次の成長を切り拓いていくリーダーとして、これからの経営を中村に託したいと思います。

- 最後に、38ページをご覧ください。
- 先ほどご紹介したとおり、当社グループはこれまで積み重ねてきた成長を土台に、新たな経営執行体制のもとで、グループビジョン2032の実現に向けて次の成長ステージへの歩みを進めてまいります。
- 一方、もちろんこの下期は、引き続き私が社長として現中期経営計画の総仕上げに注力し、次期中計でスタートダッシュできるようにしてまいります。
- 今後とも、変革を通じてさらなる進化を目指すTISインテックグループにご期待いただければ幸いです。

- 以上で、私からの説明を終了いたします。

1　2027年3月期第2四半期(中間期) 業績概要

2　2027年3月期 業績見通し

3　株主還元

4　今後の成長に向けた取り組み



5　参考資料

© 2026 TISI Inc.

（説明省略）

2027年3月期第2四半期(中間期)
主要セグメント別売上高(事業別) ※外部顧客向け

(百万円)		2026年3月期 第2四半期(累計)	2027年3月期 第2四半期(累計)	前年同期比	
オファリングサービス		68,942	73,874	+4,931	(+7.2%)
	ソフトウェア開発	27,957	29,683	+1,726	(+6.2%)
	運用・クラウドサービス	21,992	25,502	+3,510	(+16.0%)
	製品・ソフトウェア販売	18,993	18,689	▲304	(▲1.6%)
BPM		21,051	22,080	+1,028	(+4.9%)
	ソフトウェア開発	7,011	7,954	+943	(+13.5%)
	運用・クラウドサービス	13,306	13,410	+103	(+0.8%)
	製品・ソフトウェア販売	733	715	▲18	(▲2.6%)
金融IT		47,329	52,286	+4,957	(+10.5%)
	ソフトウェア開発	26,462	28,487	+2,025	(+7.7%)
	運用・クラウドサービス	18,822	21,557	+2,735	(+14.5%)
	製品・ソフトウェア販売	2,044	2,241	+196	(+9.6%)
産業IT		64,822	68,728	+3,906	(+6.0%)
	ソフトウェア開発	45,078	47,945	+2,866	(+6.4%)
	運用・クラウドサービス	12,609	12,743	+134	(+1.1%)
	製品・ソフトウェア販売	7,134	8,039	+905	(+12.7%)
広域ITソリューション		85,244	89,109	+3,864	(+4.5%)
	ソフトウェア開発	43,323	46,571	+3,247	(+7.5%)
	運用・クラウドサービス	30,639	31,541	+902	(+2.9%)
	製品・ソフトウェア販売	11,280	10,995	▲284	(▲2.5%)
その他	その他	1,135	1,073	▲61	(▲5.4%)
合計		288,525	307,153	+18,627	(+6.5%)
	ソフトウェア開発	149,833	160,643	+10,809	(+7.2%)
	運用・クラウドサービス	97,369	104,755	+7,386	(+7.6%)
	製品・ソフトウェア販売	40,186	40,680	+493	(+1.2%)
	その他	1,135	1,073	▲61	(▲5.4%)

© 2026 TISI Inc.

(説明省略)

2027年3月期第2四半期(7-9月)
主要セグメント別売上高(事業別) ※外部顧客向け

(百万円)		2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	前年同期比	
オファリングサービス		36,201	38,103	+1,902	(+5.3%)
	ソフトウェア開発	14,588	15,369	+781	(+5.4%)
	運用・クラウドサービス	11,213	13,352	+2,139	(+19.1%)
	製品・ソフトウェア販売	10,399	9,381	▲1,018	(▲9.8%)
BPM		10,728	11,345	+616	(+5.7%)
	ソフトウェア開発	3,634	4,162	+527	(+14.5%)
	運用・クラウドサービス	6,754	6,824	+70	(+1.0%)
	製品・ソフトウェア販売	339	358	+19	(+5.8%)
金融IT		24,031	27,069	+3,038	(+12.6%)
	ソフトウェア開発	13,548	14,759	+1,210	(+8.9%)
	運用・クラウドサービス	9,338	11,227	+1,888	(+20.2%)
	製品・ソフトウェア販売	1,143	1,082	▲60	(▲5.3%)
産業IT		32,605	34,800	+2,195	(+6.7%)
	ソフトウェア開発	22,759	24,289	+1,529	(+6.7%)
	運用・クラウドサービス	6,411	6,432	+21	(+0.3%)
	製品・ソフトウェア販売	3,433	4,077	+643	(+18.8%)
広域ITソリューション		44,032	45,203	+1,170	(+2.7%)
	ソフトウェア開発	22,337	24,173	+1,835	(+8.2%)
	運用・クラウドサービス	15,284	15,606	+322	(+2.1%)
	製品・ソフトウェア販売	6,411	5,424	▲987	(▲15.4%)
その他	その他	609	519	▲90	(▲14.8%)
合計		148,209	157,042	+8,832	(+6.0%)
	ソフトウェア開発	76,869	82,754	+5,884	(+7.7%)
	運用・クラウドサービス	49,002	53,443	+4,441	(+9.1%)
	製品・ソフトウェア販売	21,727	20,325	▲1,402	(▲6.5%)
	その他	609	519	▲90	(▲14.8%)

© 2026 TISI Inc.

(説明省略)

2027年3月期下期
業績ハイライト・主要セグメント別損益(予想)

(百万円)		2026年3月期 下期	2027年3月期 下期	前年同期比	
売上高		307,953	327,846	+19,892	(+6.5%)
営業利益		40,675	44,815	+4,140	(+10.2%)
営業利益率		13.2%	13.7%	+0.5P	–
親会社株主に帰属する四半期純利益		22,897	30,562	+7,665	(+33.5%)
四半期純利益率		7.4%	9.3%	+1.9P	–
主要セグメント別					
オファリング サービス	売上高	84,503	89,915	+5,411	(+6.4%)
	営業利益	5,774	6,828	+1,053	(+18.2%)
	営業利益率	6.8%	7.6%	+0.8P	–
BPM	売上高	22,367	22,761	+393	(+1.8%)
	営業利益	3,431	3,536	+105	(+3.1%)
	営業利益率	15.3%	15.5%	+0.2P	–
金融IT	売上高	50,652	58,878	+8,226	(+16.2%)
	営業利益	6,567	8,043	+1,475	(+22.5%)
	営業利益率	13.0%	13.7%	+0.7P	–
産業IT	売上高	68,244	70,909	+2,665	(+3.9%)
	営業利益	11,883	12,424	+541	(+4.6%)
	営業利益率	17.4%	17.5%	+0.1P	–
広域IT ソリューション	売上高	94,812	97,934	+3,121	(+3.3%)
	営業利益	12,533	13,700	+1,166	(+9.3%)
	営業利益率	13.2%	14.0%	+0.8P	–

© 2026 TISI Inc.

下期計画=通期計画ー上期実績

(説明省略)

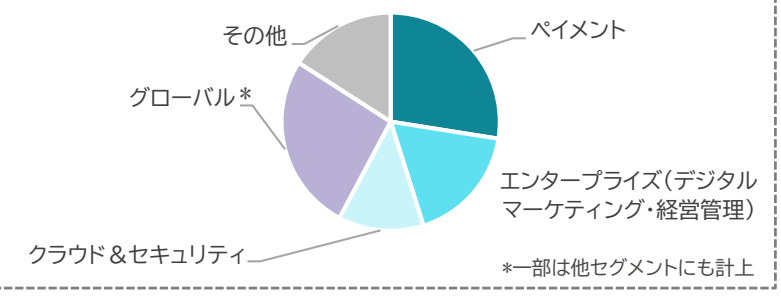
セグメント毎のビジネスモデル

オファリングサービス

定義

当社グループに蓄積した**ベストプラクティス**に基づくサービスを**自社投資**により構築し、**知識集約型ITサービス**を提供

［補足］オファリングサービス事業構成イメージ



BPM

定義

ビジネスプロセスに関する課題解決に向けてIT技術、業務ノウハウ、人材等で**高度化・効率化・アウトソーシング**を実現・提供

産業IT

定義

金融以外の産業各分野に特化した専門的なビジネス・業務ノウハウをベースとして、**事業・IT戦略を共に検討・推進**し、事業推進を支援

金融IT

定義

金融業界に特化した専門的なビジネス・業務ノウハウをベースとして、**事業・IT戦略を共に検討・推進**し、事業推進を支援

広域ITソリューション

定義

ITのプロフェッショナルサービスを**地域や顧客サイトを含み、広範に提供**し、そのノウハウを**ソリューションとして蓄積・展開**して、課題解決や事業推進を支援

© 2026 TISI Inc.

（説明省略）

戦略ドメイン・目指す姿

- 長期の事業の方向性を踏まえて、社会課題解決と共創を軸にした事業の発展、ITのみに留まらないサービスの事業化を志向して、戦略ドメインを一部見直し

グループビジョン2032において再定義した戦略ドメイン

✓ 2017年のグループビジョン2026作成時より、今後10年でめざすグループの社会的役割、事業の在り方がより鮮明化したことから、注力する事業領域を具体化

社会課題へのアプローチ強化

Social Innovation Service（SIS）

社会インパクト指標を掲げ、グループが直接的に社会課題解決を行う事業

共創型ビジネスの促進

Co-Creation Business（CCB）

グループ単独ではなしえない領域において、グループと共創パートナーそれぞれが有する強みをかけ合わせ、新たな市場を 創造する事業

有機的連携/領域

BFSを含め定義を拡張

IT & Business Offering Service（IOS）

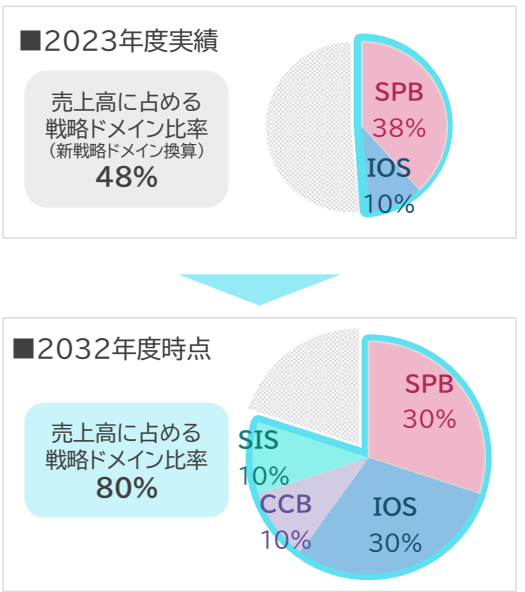
グループに蓄積した技術・ノウハウを活用し、特定業界・業務において業界ニーズに先回りした将来のデファクトスタンダードとなりうるサービスを提供する事業

Strategic Partnership Business（SPB）

業界トップクラス企業に対し、ニーズに合わせた様々なリソースを戦略パートナーとして提供し、顧客の事業成長や企業変革を支援する事業

めざす戦略ドメインの構成

✓ SPB、IOSが大きく伸長、新設のCCBとSISも一定規模に育ち、多様なビジネスがバランスよく取り込まれた事業ポートフォリオを確立



「2024/5/8公表 中期経営計画説明資料」より再掲

© 2026 TISI Inc.

（説明省略）

2027年3月期第2四半期（中間期）
プレスリリース/お知らせ①

発表日付	タイトル
2026年7月1日	TISとインテックの合併完了および商号変更に関するお知らせ
2026年7月1日	TISI株式会社として初のテレビCMが7月1日（水）より放映開始
2026年7月1日	人事異動に関するお知らせ
2026年7月2日	TISI、データに基づく経営判断を支援する「予算管理テンプレート on SAP Analytics Cloud for Planning」提供開始
2026年7月3日	TISI、「HPE Partner Growth Summit 2026」で「Service Provider of the Year 2026」を受賞
2026年7月8日	TISI、伊予銀行のCRMデータを活用し、生成AIによる営業高度化に向けた実証実験を開始
2026年7月9日	アグレックス、「Accel-Mart Quick」を活用した業務アプリケーション開発の内製化を支援するサービスを提供開始
2026年7月10日	TISI、「PROTO」にセルフィー機能、「イベントDXプラットフォームサービス」にプッシュ通知機能を追加
2026年7月13日	Micoとアグレックス、はなさく生命におけるAIコール保全の実証実験を共同推進。投資額の約30倍となる事業インパクトを算出
2026年7月13日	フィノバレーと夢職人、子どもや若者の社会参加促進に向けた包括的業務提携を締結
2026年7月16日	TISI、三井化学のSAP S/4HANAを中核としたIT・データ基盤構築を支援
2026年7月17日	「ライフキャリアコンパス」が「日本子育て支援大賞2026」を受賞
2026年7月22日	マイクロメイツ、Copilotの導入から定着までを支援する「Copilot操作・プロンプト相談窓口サービス」を提供開始
2026年7月22日	TISI、AWSのパートナー技術者表彰プログラムに総勢67名の社員が選出
2026年7月23日	紀陽銀行がTISIの「CRMサービス」を採用
2026年7月24日	TISI、SAP S/4HANAアドオンのclean core化を支援する新サービスを提供開始
2026年7月27日	TISIの顧客行動可視化サービス「キャクシル」がJクラブの独自Payに初採用
2026年7月28日	TISIとアットストリームコンサルティング、生成AIを活用したシステムコンサルティング業務の生産性向上を実案件で確認
2026年7月29日	マイクロメイツ、社内ナレッジを活用したAIエージェント構築の内製化を支援する「Copilot Studio内製化支援・開発代行サービス」を提供開始
2026年7月29日	TISI、決済領域に特化したVertical AIと専門人材を掛け合わせた「PAYCIERGE」の次世代決済プラットフォーム戦略を始動
2026年7月30日	TISI、「Microsoft Top Partner Engineer Award 2026」を7名の社員が受賞
2026年7月30日	TISIと大阪大学 量子情報・量子生命研究センター、量子コンピュータで実用規模10,000件超の組合せ最適化を商用最適化ソルバーと同精度で達成
2026年7月31日	TISIと米Fireblocks、SIerとして国内初のリセラー契約締結でオンチェーン金融を推進
2026年8月3日	人事異動に関するお知らせ
2026年8月4日	TISI、EC取引の不正リスクを可視化し、対策設計から運用までを一貫して支援する新サービスを提供開始

© 2026 TISI Inc.

（説明省略）

2027年3月期第2四半期（中間期）
プレスリリース/お知らせ②

発表日付	タイトル
2026年8月5日	自らのデータに関わる懸念を低減し、データ流通の適切性や円滑性の向上を実現する国際標準規格「セキュアなセンサデータストアシステム」が、国際標準化へ向け審議開始
2026年8月6日	TISI、「Nablarch」専用AIコーディングツール向けプラグインを無償公開
2026年8月7日	TISI、経営判断を5営業日から15分に短縮するAIソリューションで「SAP® BTP Hackathon 2026」最優秀賞を受賞
2026年8月14日	「令和8年熊本地震」被害への支援について
2026年8月19日	TISI、地域共創とデータ活用により埼玉県横瀬町の住民参加型森林再生プロジェクトを支援
2026年8月27日	ネクスウェイの「CPaaS NOW」がベーシックの「workrun」と連携し、顧客通知から後続フォローまでのプロセスをノーコードで自動化
2026年8月27日	アグレックス、Sovablu社と販売代理店契約を締結し、AI駆動開発プラットフォーム「Sovablu」の国内市場展開を加速
2026年8月28日	TISI、「エネLink」シリーズにおけるアワリーマッチング対応機能実装をUPDATERと開始
2026年8月31日	ネクスウェイの「アスヤク 配信ポータルサービス」から、電子薬歴上に服薬情報を表示する「薬歴システム表示便」を提供開始
2026年8月31日	TISI、ADKマーケティング・ソリューションズと、AI活用によるファン形成・事業成長モデルの実現に向け業務提携契約を締結
2026年8月31日	TISI、AJSとI AM Consultingと連携し、SAPソリューションに関する専門のCoE体制を構築、グループ全体のSAPビジネスを推進
2026年9月1日	TISI、ハックルベリーと、コマース領域におけるデータ連携基盤強化に向けた業務提携契約を締結
2026年9月1日	人事異動に関するお知らせ
2026年9月15日	TISI、フロンティアAIを悪用したサイバー攻撃に対応するセキュリティ運用基盤「AI Security Control Plane」の取り組みを開始
2026年9月16日	TISI、コーセーの企業間データ連携基盤刷新を支援
2026年9月16日	「令和8年8月千葉豪雨」および「令和8年8月27日からの大雨（富山県・石川県・福井県）」被害への支援について
2026年9月17日	TISI、生成AIを活用した複数自治体による広域データ連携基盤の共同利用に関する実証を実施
2026年9月17日	TISI、あいち銀行へ法人向けDXプラットフォーム「DX Connect Gate」を導入
2026年9月24日	TISI、光世証券に国際標準規格FIDOに準拠した「FIDO・パスキー認証基盤：Capy生体認証ソリューション」を導入
2026年9月24日	企業における生成AI活用の実態を調査したレポートを公開
2026年9月25日	TISI、「Xenlon～神龍 モダナイゼーションサービス」にてAIで保守業務の効率化と属人化解消を支援する新サービスを提供開始
2026年9月28日	アグレックス、顧客データ品質の現状把握から改善提案までを支援する「顧客データ品質AI診断サービス」の提供を開始
2026年9月28日	TISI、生成AIでJR西日本のAPI開発プロセス高度化を支援し、鉄道・MaaS領域の業務効率化に寄与
2026年9月29日	TISIと竹富町観光協会、AI活用で観光案内のデジタル化を推進し、多言語対応サービスを沖縄県竹富町全域で運用開始
2026年9月29日	登録管理ネットワーク、自動車ローンの所有権解除業務をデジタル化するオンライン受付システムを提供開始

© 2026 TISI Inc.

（説明省略）

ITで、社会の願い叶えよう。

TIS INTEC
Group

（説明省略）